



voice-class sip error-code-override through vxml version 2.0

- [voice-class sip error-code-override](#) (4 ページ)
- [音声クラス sip g729 annexb-all](#) (7 ページ)
- [voice-class sip history-info](#) (9 ページ)
- [voice-class sip localhost](#) (11 ページ)
- [voice-class sip map resp-code](#) (14 ページ)
- [voice-class sip midcall-signaling](#) (16 ページ)
- [voice-class sip nat media-keepalive](#) (18 ページ)
- [voice-class sip options-keepalive](#) (20 ページ)
- [voice-class sip options-keepalive profile](#) (22 ページ)
- [voice-class sip outbound-proxy](#) (23 ページ)
- [voice-class sip preloaded-route](#) (25 ページ)
- [voice-class sip プライバシー](#) (26 ページ)
- [voice-class sip privacy-policy](#) (29 ページ)
- [voice-class sip random-contact](#) (31 ページ)
- [voice-class sip random-request-uri validate](#) (33 ページ)
- [voice-class sip referto-passing](#) (35 ページ)
- [voice-class sip registration passthrough](#) (36 ページ)
- [voice-class sip rel1xx](#) (38 ページ)
- [voice-class sip requiri-passing](#) (40 ページ)
- [voice-class sip reset timer expires](#) (42 ページ)
- [音声クラス SIP リソース優先度 DSCP プロファイル](#) (44 ページ)
- [voice-class sip resource priority mode \(dial-peer\)](#) (45 ページ)
- [音声クラス SIP リソース優先度名前空間 \(dial-peer\)](#) (47 ページ)
- [voice-class sip rsvp-fail-policy](#) (49 ページ)
- [voice-class sip send 180 sdp](#) (52 ページ)
- [voice-class sip srtp-auth](#) (53 ページ)
- [voice-class sip srtp-crypto](#) (55 ページ)
- [voice-class sip srtp negotiate](#) (57 ページ)

- voice-class sip tel-config to-hdr (59 ページ)
- 音声クラス SIP テナント (60 ページ)
- voice-class sip transport switch (61 ページ)
- voice-class sip url (62 ページ)
- voice-class source interface (64 ページ)
- voice-class stun-usage (66 ページ)
- voice-class tone-signal (67 ページ)
- 音声制御ファイル (68 ページ)
- 音声確認音 (69 ページ)
- voice dnis-map (70 ページ)
- voice dnis-map load (72 ページ)
- voice dsp crash-dump (73 ページ)
- 音声 DSP 無効メッセージドロップ (76 ページ)
- 音声エコーキャンセラー拡張 (77 ページ)
- voice enum-match-table (80 ページ)
- voice hpi capture (82 ページ)
- voice hunt (85 ページ)
- voice iec syslog (92 ページ)
- 音声ローカルバイパス (93 ページ)
- 音声 mlpp (94 ページ)
- ボイスメール (stcapp-fsd) (95 ページ)
- 音声 PCM キャプチャ (97 ページ)
- 音声電話プロキシ (100 ページ)
- 音声電話プロキシファイルバッファ (101 ページ)
- voice-phone-proxy tftp-address (102 ページ)
- ボイスポート (103 ページ)
- voice-port (105 ページ)
- 音声ポート (MGCP プロファイル) (108 ページ)
- voice-port busyout (109 ページ)
- voice rtp send-recv (111 ページ)
- voice rtp source-filter (112 ページ)
- 音声サービス DSP 予約 (114 ページ)
- 音声サービス (116 ページ)
- 音声 SIP SIP プロファイル (118 ページ)
- voice sip oauth get-keys (119 ページ)
- voice source-group (120 ページ)
- voice statistics accounting method (122 ページ)
- voice statistics display-format separator (124 ページ)
- voice statistics field-params (126 ページ)
- voice statistics max-storage-duration (128 ページ)
- voice statistics push (130 ページ)

- voice statistics time-range (132 ページ)
- 音声 統計 タイプ CSR (135 ページ)
- voice statistics type iec (137 ページ)
- voice translation-profile (138 ページ)
- voice translation-rule (139 ページ)
- voice vad-time (140 ページ)
- voice vrf (141 ページ)
- VoIP 着信翻訳プロファイル (142 ページ)
- voip-incoming translation-rule (143 ページ)
- voip trunk group (145 ページ)
- 音量 (146 ページ)
- vxml allow-star-digit (148 ページ)
- Vxml ロギングタグ (149 ページ)
- vxml audioerror (150 ページ)
- vxml tree memory (151 ページ)
- Vxml バージョン 2.0 (153 ページ)

voice-class sip error-code-override

ダイヤルピアが options-keepalive エラー、call spike、または cac-bandwidth エラーに使用する Session Initiation Protocol (SIP) エラーコードを構成するには、dial peer voice 構成モードで、**voice-classsiperror-code-override** コマンドを使用します。SIP エラーコード設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice-classsiperror-code-override {options-keepalivefailure | callspikefailure | cac-bandwidthfailure}
{SIP ステータスコード番号 | system}
novoice-classsiperror-code-override {options-keepalivefailure | callspikefailure |
cac-bandwidthfailure}
```

構文の説明		
	options-keepalivefailure	オプション キープアライブの失敗に対する SIP エラーコードを設定します。
	callspikefailure	通話スパイク障害の SIP エラーコードを設定します。
	cac-bandwidthfailure	コールアドミッションコントロール帯域幅障害の SIP エラーコードを設定します。
	SIP ステータスコード番号	options keepalive、call spike または cac-bandwidth エラーに関して送信される SIP 状態コード。範囲は 400 ~ 699 です。デフォルト値は 503 です。以下の「使用ガイドライン」セクションの表では、これらのエラーコードについて説明しています。
	system	キープアライブ、コールスパイク、または CAC 帯域幅の障害に使用されるシステム構成を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトでは、SIP エラーコードは構成されていません。

コマンド モード Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.0(1)XA	このコマンドが導入されました。
	15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。
	15.1(3)T	このコマンドは変更されました。 callspikefailure キーワードが追加されました。
	15.2(2)T	このコマンドは変更されました。 cac-bandwidthfailure キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン ダイヤルピア音声設定モードの **voice-classsiperror-code-override** コマンドは、ダイヤルピアレベルでのキープアライブオプション、コールスパイク、または CAC 帯域幅障害に対するエ

ラーコード応答を設定します。voice service SIP 構成モードで **error-code-override** コマンドを使用すると、options keepalive、call spike または cac-bandwidth エラーに関するエラーコード応答をグローバルに構成できます。

以下の表は SIP エラーコードについて説明しています。

表 1: SIP エラーコード

エラーコード番号	description
400	要求の形式が正しくありません
401	未認証
402	お支払いが必要です
403	Forbidden
404	見つかりませんでした
408	リクエストがタイムアウトしました
416	サポートされていない Uniform Resource Identifier (URI)
480	一時的に使用できません
482	ループが検出されました
484	アドレスが不完全です。
486	ビジー (Busy here)
487	リクエストが終了
488	ここでは受け入れられません
500–599	SIP 5xx - サーバ/サービス障害
500	内部サーバエラー
502	不正なゲートウェイ
503	サービスは利用できません
600–699	SIP 6xx - グローバル障害

例

次の例は、**voice-class sip error-code-override** コマンドを使用して、オプション キープ アライブ障害の SIP エラーコードを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 432 voip system
Router(config-dial-peer)# voice-class sip error-code-override options-keepalive failure
502
```

次の例は、**voice-class sip error-code-override** コマンドを使用して、コールスパイク障害の SIP エラー コードを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 432 voip system
Router(config-dial-peer)# voice-class sip error-code-override call spike failure 502
```

次の例は、コールアドミッション制御の帯域幅障害の SIP エラー コードを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 432 voip system
Router(config-dial-peer)# voice-class sip error-code-override cac-bandwidth failure 502
```

関連コマンド

コマンド	description
error-code-override	voice service SIP および dial peer voice 構成モードで、options keepalive、call spike または cac-bandwidth エラーに関する SIP エラーコードを構成します。

音声クラス sip g729 annexb-all

Cisco IOS Session Initiation Protocol (SIP) ゲートウェイで、ゲートウェイ上の特定のダイヤルピアが、Cisco Unified Communications Manager との相互運用のために G.729r8 および G.729br8 コーデックのスーパーセットとして G.729br8 コーデックを扱うかどうかを決定する設定を行うには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipg729annexb-all** コマンドを使用します。ダイヤルピアが G.729br8 コーデックを G.729r8 および G.729br8 コーデックのスーパーセットとして扱うことを防ぐには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipg729annexb-all[system]

novoice-classsipg729annexb-all

構文の説明

annexb-all	Cisco Unified Communications Manager と通信するために、G.729br8 コーデックが G.729r8 および G.729br8 コーデックのスーパーセットとして扱われることを指定します。
system	(オプション) Cisco IOS SIP ゲートウェイでこの機能に設定されたグローバル設定に従って、ダイヤルピアが互換性のない G.729 コーデック間の通信を許可するように指定します。

コマンドデフォルト

ダイヤルピアは、Cisco IOS ゲートウェイのグローバル(システム)設定に従います。

コマンドモード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)XZ	このコマンドが導入されました。
12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。

使用上のガイドライン

G.729 コーダ/デコーダ(コーデック)には4つのバリエーションがあり、次の2つのカテゴリに分類されます。

高い複雑性

- G.729 (g729r8)--他のすべての G.729 コーデックバリエーションのベースとなる、複雑性の高いアルゴリズムコーデック。
- G.729 Annex-B (g729br8 または G.729B) - G.729 コーデックのバリエーションで、DSP が音声アクティビティを検出して測定し、抑制されたノイズレベルを伝えて相手側で再現できるようにします。さらに、Annex-B コーデックには、インターネット技術タスク フォース (IETF) の音声アクティビティ検出 (VAD) およびコンフォート ノイズ生成 (CNG) 機能が含まれています。

中程度の複雑さ

- G.729 Annex-A (g729ar8 または G.729A) - DSP の負荷を軽減するために音声品質をある程度犠牲にする G.729 コーデックのバリエーション。G.729 をサポートするすべてのプラットフォームは、G.729A もサポートします。
- G.729A Annex-B (g729abr8 または G.729AB) - G.729 Annex-B コーデックのバリエーションで、G.729B と同様に、DSP の負荷を軽減するために音声品質を犠牲にします。さらに、G.729AB コーデックには IETF VAD および CNG 機能も含まれています。

VAD および CNG 機能は、一方の DSP が Annex-B (G.729B または G.729AB) で構成され、もう一方が Annex-B なし (G.729 または G.729A) で構成されている 2 つの DSP 間の通信試行中に不安定になる原因となります。その他のすべての組み合わせは相互運用可能です。Cisco IOS SIP ゲートウェイ上でダイヤルピアを Cisco Unified Communications Manager (旧称 Cisco CallManager、または CCM) と相互運用するように設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-class sip g729 annexb-all** コマンドを使用して、次のいずれかを実行します。

- Cisco IOS ゲートウェイのグローバル設定を上書きし、互換性のない G.729 コーデックを持つ 2 つの DSP 間の通話を受け入れて接続するようにダイヤルピアを設定します。
- 個々のダイヤルピアが Cisco IOS SIP ゲートウェイのグローバル (**system**) 設定を使用するように指定します。
- Cisco IOS ゲートウェイのグローバル設定を上書きし、ダイヤルピアが G.729br8 コーデックを G.729r8 および G.729br8 コーデックのスーパーセットとして扱わないように指定するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

音声サービス SIP 設定モードで **g729 annexb-all** コマンドを使用して、Cisco IOS SIP ゲートウェイのグローバル設定を行います。

例

次の例は、互換性のない G.729 コーデックを使用して 2 つの DSP 間の通話を接続し、この機能のグローバルゲートウェイ設定を上書きするように Cisco IOS SIP ゲートウェイ上でダイヤルピアを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# dial-peervoice 1
Router(config-dial-peer)# voice-class sip g729 annexb-all
```

関連コマンド

コマンド	description
g729 annexb-all	Cisco IOS SIP ゲートウェイが G.729br8 コーデックを G.729r8 および G.729br8 コーデックのスーパーセットとして扱うかどうかを決定するグローバル設定を構成します。

voice-class sip history-info

Cisco IOS ゲートウェイでダイヤルピアレベルで Session Initiation Protocol (SIP) history-info ヘッダーのサポートを有効にするには、dial peer 構成モードで **voice-classsiphistory-info** コマンドを使用します。SIP history-info ヘッダーのサポートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsiphistory-info[system]
novoice-classsiphistory-info

構文の説明

system	(オプション)グローバル構成設定を使用して history-info サポートを有効にします。
---------------	---

コマンド デフォルト

History-info ヘッダーのサポートは無効です。

コマンド モード

ダイヤルピア設定 (conf-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE リリース 3.1S	このコマンドが Cisco IOS XE Release 3.1S に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ダイヤルピア レベルで history-info ヘッダーのサポートを有効にします。history-info ヘッダー (RFC 4244 で定義) は、通話またはダイアログの履歴を記録します。受信側アプリケーションは、history-info ヘッダー情報を使用して、呼び出しが到達した方法と理由を判断します。



- (注) Cisco IOS SIP ゲートウェイは、history-info ヘッダーの情報を使用してルーティングを決定することはできません。

例

次の例では、ダイヤルピア レベルで SIP history-info ヘッダーのサポートを有効にします。

```
Router(config)# dial-peer voice 2 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip history-info
```

次の例では、グローバル構成設定を使用してダイヤルピア レベルで SIP history-info ヘッダーのサポートを有効にします。

```
Router(config)# dial-peer voice 2 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip history-info system
```

関連コマンド

コマンド	description
history-info	Cisco IOS ゲートウェイで SIP history-info ヘッダーのサポートをグローバルレベルで有効にします。

voice-class sip localhost

個々のダイヤルピアを設定して、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、Cisco Unified Border Element (Cisco UBE)、または Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) のグローバル設定を上書きし、発信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーの物理 IP アドレスの代わりに、ドメインネーム システム (DNS) のホスト名またはドメインをローカルホスト名として置き換えるには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-class sip localhost** コマンドを使用します。特定のダイヤルピアでのローカルホスト名の置換を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。特定のダイヤルピアをローカルホスト名の置換のグローバル設定に従うように設定するには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

voice-class sip localhost dns:[hostname] ドメイン [preferred]
no voice-class sip localhost
default voice-class sip localhost

構文の説明

dns: [ホスト名.]ドメイン	発信の From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーの主権者部分で使用される物理 IP アドレスの代わりに DNS ドメイン (特定のホスト名を持つ、または持たないドメイン名で構成される) を表す英数字値です。 この値は、ピリオドで区切られたホスト名とドメイン (dns:hostname.domain) またはドメイン名のみ (dns:domain) にすることができます。どちらの場合でも、 dns: デリミタを最初の 4 文字に含める必要があります。
preferred	(オプション) 指定した DNS ホスト名を優先します。

コマンド デフォルト

ダイヤルピアは、グローバル構成設定を使用して、送信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダー内の物理 IP アドレスの代わりに DNS ローカルホスト名を置き換えるかどうかを決定します。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。
15.0(1)XA	このコマンドは変更されました。SIP トランクに複数のレジストラが設定されている場合、優先されるローカルホストを指定するために preferred キーワードが追加されました。
IOS リリース XE 2.5	このコマンドが Cisco IOS XE Release 2.5 に統合されました。
15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン

ダイヤルピア音声設定モードで **voice-class sip localhost** コマンドを使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、Cisco UBE、または Cisco Unified CME のグローバル設定を上書きし、特定のダイヤルピアの発信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーの物理 IP アドレスの代わりに使用する DNS ローカルホスト名を設定します。個々のダイヤルピアに対して複数のレジストラが設定されている場合は、**voice-class sip localhost preferred** コマンドを使用して、そのダイヤルピアに優先するホストを指定できます。

Cisco IOS 音声ゲートウェイ、Cisco UBE、または Cisco Unified CME でローカルホスト名をグローバルに設定するには、音声サービス SIP 設定モードで **localhost** コマンドを使用します。**no voice-class sip localhost** コマンドを使用して、ダイヤルピアのローカルホスト名設定を削除し、グローバル設定に関係なく、ダイヤルピアが From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーのホスト部分の物理 IP アドレスを使用するように強制します。

例

次の例は、発信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダー内の物理 IP アドレスの代わりに、優先ローカルホスト名としてドメイン（ホスト名は指定されていない）を置換するようにダイヤルピア 1 を設定する方法を示しています（グローバル設定を上書きします）。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# dial-peer voice 1 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip localhost dns:example.com preferred
```

次の例は、発信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダー内の物理 IP アドレスの代わりに、ドメイン上の特定のホスト名を優先ローカルホスト名として置き換えるようにダイヤルピア 1 を設定する方法を示しています（グローバル設定を上書きします）。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# dial-peer voice 1 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip localhost dns:MyHost.example.com preferred
```

次の例は、ダイヤルピア 1 に（グローバル設定を上書きして）送信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーの物理 IP アドレスを使用するように強制する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# dial-peer voice 1 voip
Router(config-dial-peer)# no voice-class sip localhost
```

関連コマンド

コマンド	description
authentication(dialpeer)	個々のダイヤルピアで SIP ダイジェスト認証を有効にします。
authentication(SIPUA)	SIP ダイジェスト認証を有効にします。

コマンド	description
credentials(SIPUA)	UP 状態の時に SIP 登録メッセージを送信するように Cisco UBE を設定します。
localhost	送信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダー内の物理 IP アドレスの代わりに DNS ローカルホスト名を置き換えるためのグローバル設定を構成します。
registrar	Cisco IOS SIP ゲートウェイが FXS、EFXS、SCCP 電話の代わりに E.164 番号を外部 SIP プロキシまたは SIP レジストラに登録できるようにします。

voice-class sip map resp-code

Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) で個々のダイヤルピアを構成して、受信した具体的な Session Initiation Protocol (SIP) 暫定応答メッセージを発信 SIP ダイヤルピアにマッピングするには、`dial peer voice` 構成モードで、**voice-classsipmapresp-code** コマンドを使用します。個々のダイヤルピアで受信した SIP 暫定応答メッセージのマッピングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。着信 SIP 暫定応答メッセージのマッピングについて、特定のダイヤルピアをグローバル設定に従うように設定するには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

voice-classsipmapresp-code181to183
novoice-classsipmapresp-code181to183
defaultvoice-classsipmapresp-code181to183

構文の説明

181	マッピングされ、置換される特定の着信 SIP 暫定応答メッセージを表すコードです。
to	指定された着信 SIP 暫定応答メッセージが発信 SIP ダイヤルピア上の別の SIP 暫定応答メッセージにマッピングされ、置換されることを指定するための指定子。
183	着信 SIP メッセージ応答がマッピングされるべき発信ダイヤルピアの特定の SIP 暫定応答メッセージを表すコードです。

コマンド デフォルト

マッピング動作はグローバル構成設定によって決定されます。具体的に設定されていない場合は、着信 SIP 暫定応答がそのまま発信 SIP ダイヤルピアに渡されることを意味します。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)XA	このコマンドが導入されました。
15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。
Cisco IOS XE リリース 3.1S	このコマンドが Cisco IOS XE Release 3.1S に統合されました。

使用上のガイドライン

ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipmapresp-code** コマンドを使用して、Cisco UBE 上の個々のダイヤルピアを設定し、着信 SIP 181 暫定応答メッセージを発信 SIP ダイヤルピア上の SIP 183 暫定応答メッセージにマッピングします。



- (注) **block** コマンドがグローバルまたはダイヤルピア レベルで着信 SIP 181 メッセージに設定されている場合、**voice-classsipmapresp-code** コマンドが有効になっている場合でも、メッセージが渡されるか別のメッセージにマップされる前にドロップされる可能性があります。着信 SIP 181 メッセージをドロップするかどうか、およびドロップするタイミングをグローバルに設定するには、音声サービス SIP 設定モードで **block** コマンドを使用します (または、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipblock** コマンドを使用して、個々のダイヤルピアでドロップ設定を設定します)。

Cisco UBE 上で SIP 暫定応答メッセージのマッピングをグローバルに設定するには、音声サービス SIP 設定モードで **mapresp-code** コマンドを使用します。Cisco UBE の個々のダイヤルピア向け SIP 181 メッセージのマッピングを無効にするには、voice service SIP 構成モードで、**novoice-classsipmapresp-code** コマンドを使用します。

たとえば、SIP 181 暫定応答メッセージの処理をサポートしていない SIP エンドポイントのインターワーキングを有効にするには、**block** コマンドを使用して、SIP トランク上で受信した SIP 181 暫定応答メッセージをドロップするように Cisco UBE を設定するか、**mapresp-code** コマンドを使用して、着信メッセージを Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) の SIP 回線にマッピングし、代わりに SIP 183 暫定応答メッセージを送信するように Cisco UBE を設定することができます。



- (注) このコマンドは SIP-to-SIP コールに対してのみサポートされ、H.323-to-SIP または時分割多重 (TDM)-SIP コールには影響しません。

例

次の例は、着信 SIP 181 暫定応答メッセージを発信ダイヤルピアの SIP 183 暫定応答メッセージにマッピングするようにダイヤルピア 1 を設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 1 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip map resp-code 181 to 183
```

関連コマンド

コマンド	description
block	Cisco IOS 音声ゲートウェイまたは Cisco UBE 上の特定の SIP 暫定応答メッセージをドロップするためのグローバル設定を行います。
mapresp-code	特定の着信 SIP 暫定応答メッセージを別の SIP 応答メッセージにマッピングするための Cisco UBE のグローバル設定を行います。
voice-classsipblock	指定された SIP 暫定応答メッセージをドロップするように、Cisco IOS 音声ゲートウェイまたは Cisco UBE 上の個々のダイヤルピアを設定します。

voice-class sip midcall-signaling

シグナリングメッセージに使用する方法を設定するには、SIP設定モードまたはダイヤルピア設定モードで **voice-class sip midcall-signaling** コマンドを使用します。通話中のシグナリング機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip midcall-signaling {passthru-media-change | block | preserve-codec}
no voice-class sip midcall-signaling

構文の説明	
passthru-media-change	ある IP レッグから別の IP レッグにメディア変更を伴う SIP メッセージを渡します。
block	通話中にすべての SIP メッセージをブロックします。
preserve-codec	通話の初期化中にネゴシエートされたコーデックを保持します。通話中のコーデック変更は無効になっています。

コマンド デフォルト ミッドコールシグナリングは無効です。通話中のコーデック ネゴシエーションが有効になっています。

コマンド モード ダイヤルピア設定モード (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(15)XZ	このコマンドが導入されました。
	12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。
	Cisco IOS XE リリース 2.5	このコマンドが Cisco IOS XE Release 2.5 に統合されました。
	15.2(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.2(1)T に統合されました。 media-change および block キーワードが追加されました。
	15.3(2)S、15.3(1)T	このコマンドは変更されました。 preserve-codec キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン **voice-class sip midcall-signaling** コマンドは、Cisco Unified Communications Express と Cisco Unified Border Element がシグナリングメッセージを処理する方法を区別します。ほとんどの SIP 間ビデオおよび SIP 間再招待ベースの補足サービスでは、他の補足サービスを設定する前に、**voice-class sip midcall-signaling** コマンドを設定する必要があります。 **voice-class sip midcall-signaling** を構成せずに機能する補助サービス機能には、session refresh、fax、参照ベースの補足サービスなどが挙げられます。 **voice-class sip midcall-signaling** コマンドは SIP 間通話専用です。その他のすべての通話 (H323 から SIP、および H323 から H323) では、**voice-class sip midcall-signaling** コマンドを設定する必要はありません。 **allow-connectionssip-to-sip** コマンドは、**voice-class sip midcall-signaling** コマンドの前に設定する必要があります。

再招待するセッションの更新をダイヤルピアベースで設定することはサポートされていません。

例

次の例は、1つのIP レッグから別のIP レッグにパススルーするように構成されたSIP メッセージを示しています。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# voice-class sip midcall-signaling passthru
```

次の例は、1つのIP レッグから別のIP レッグにメディア パススルーするように構成されたSIP メッセージを示しています。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# voice-class sip midcall-signaling passthru media-change
```

次の例はSIP メッセージをブロックする方法を示します。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# voice-class sip midcall-signaling block
```

次の例は、通話の途中でコーデック ネゴシエーションを無効にし、通話の開始時にネゴシエートされたコーデックを保持する方法を示しています。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# voice-class sip midcall-signaling preserve-codec
```

関連コマンド

コマンド	description
allow-connections	Cisco Unified BE の特定のタイプのエンドポイント間の接続を許可します。

voice-class sip nat media-keepalive

デバイスがNATの背後に設定されている場合にメディア キープアライブ パケットを有効にするには、ダイヤルピア設定モードで **voice-class sip nat** コマンドを使用します。メディアを無効にするには、このコマンドの **no** または **default** 形式を使用します。

voice-class sip nat media-keepalive 間隔
no voice-class sip nat
default voice-class sip nat

構文の説明

media-keepalive NATの背後に位置するサブスクリバラーへのメディアキープアライブを指定します。

間隔 キープアライブ間隔を秒単位で指定します。範囲は1～50です。デフォルト値は10です。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、**media-keepalive** は無効になっています。

コマンド モード

ダイヤルピア設定モード (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE 17.13.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE ダブリン 17.12.2	

使用上のガイドライン

ダイヤルピアがテナントに関連付けられている場合、設定は次の優先順位で適用されます。

- ダイヤルピア コンフィギュレーション
- テナント設定
- グローバル構成

新しく作成されたダイヤルピアは、**dial-peer voice** コマンドの **no** 形式を使用して削除されるまで、定義されたままアクティブ状態になります。

例

次の例は、メディア キープアライブ パケットが秒単位で指定された間隔で送信されるようにメディア キープアライブを設定する方法を示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 999 voip
Device(config-dial-peer)# voice-class sip nat media-keepalive 40
```



(注) **voice-class sip nat media-keepalive** コマンドは適用後すぐに有効になります。

関連コマンド

コマンド	description
nat media-keepalive	SIP ネットワークアドレス変換(NAT) グローバル構成を使用します。
voice class tenant タグ	ダイヤルピアを特定のテナント構成に関連付けます。

voice-class sip options-keepalive

Cisco Unified Border Element VoIP dial-peers および SIP サーバー間の接続を監視するには、dial-peer 構成モードで、**voice-classsipoptions-keepalive** コマンドを使用します。接続の監視を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip options-keepalive キープアライブグループプロファイル ID {**up-interval**秒 | **down-interval**秒 | **retry**リトライ}
no voice-classsipoptions-keepalive

構文の説明

キープアライブグループプロファイル ID	keepalive group profile id を指定します。
up-interval 秒	UA が利用不可としてマークされるまでに許容されるアップ間隔の秒数。範囲は 5 ~ 1200 です。デフォルト値は 60 です。
down-interval 秒	UA が利用不可としてマークされるまでに許容されるダウン間隔の秒数。範囲は 5 ~ 1200 です。デフォルト値は 30 です。
retry 再試行	UA を利用不可としてマークするまでの再試行回数。範囲は 1 ~ 10 です。デフォルト値は 5 回の試行です。

コマンド デフォルト

ダイヤルピアはアクティブ (UP) です。

コマンド モード

ダイヤル ピア設定モード (config-dial-peer)。

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

voice-classsipoptions-keepalive コマンドを使用して、任意の数の宛先間の out-of-dialog (OOD) Options Ping メカニズムを構成します。監視対象エンドポイントハートビートの応答が失敗すると、構成した dial-peer はビジー状態になります。同じ宛先パターンが構成されている代替 dial-peer がある場合、通話は次の優先ダイヤルピアにフェールオーバーされるか、通話は、エラー原因コードで拒否されます。

次のシナリオでは、options ping への応答は失敗とみなされ、dial-peer はビジー状態になります。

表 2: エンドポイントをビジーアウトするエラーコード

エラーコード (Error Code)	description
503	service unavailable
505	sip version not supported
応答なし	i.e. request timeout

400 を含むその他すべてのエラー コードは有効な応答とみなされ、ダイヤル ピアはビジーアウトされません。

例

次の例は、リセットするように設定されたダイヤル ピア 100 の設定例を示しています。

```
dial-peer voice 100 voip
  voice-class sip options-keepalive up-interval 12 down-interval 65 retry 3
```

関連コマンド

コマンド	description
dial-peer voice	特定のダイヤルピアを定義し、音声カプセル化の方法を指定します。

voice-class sip options-keepalive profile

ダイヤルピアを指定されたキープアライブグループプロファイルに関連付けるには、ダイヤルピア設定モードで **voice-class sip options-keepalive profile** コマンドを使用します。

voice-class sip options-keepalive profile *keepalive-group-profile-id*

構文の説明

keepalive-group-profile-id keepalive group profile id を指定します。

コマンド デフォルト

ダイヤルピアはアクティブ (UP) です。

コマンド モード

ダイヤルピア設定モード (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE ダブリン 17.11.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ダイヤルピアは、options-keepalive プロファイルで定義されたパラメータに従って CUBE によって監視されます。

例

次の例は、発信 SIP ダイヤルピアとキープアライブプロファイルグループとの関連付けのサンプル設定を示しています。

```
dial-peer voice 123 voip
  session protocol sipv2
  !
voice-class sip options-keepalive profile 171
end
```

voice-class sip outbound-proxy

発信プロキシを設定するには、ダイヤルピア設定モードで **voice-classsipoutbound-proxy** コマンドを使用します。送信プロキシ値をデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipoutbound-proxy {**dhcp** | **ipv4**:IPv4 アドレス | **ipv6**:*[ipv6-address]* | **dns**:ホスト : ドメイン}**[:**ポート番号]
novoice-classsipoutbound-proxy

構文の説明		
	DHCP	送信プロキシ IP アドレスが DHCP サーバから取得されることを指定します。
	ipv4 :IPv4 アドレス	サーバ上でプロキシを設定し、すべての開始要求を指定された IPv4 アドレスの宛先に送信します。コロンが必要です。
	ipv6 : <i>[ipv6-address]</i>	サーバ上でプロキシを設定し、すべての開始要求を指定された IPv6 アドレスの宛先に送信します。IPv6 アドレスを括弧で囲む必要があります。コロンが必要です。
	dns :ホスト:ドメイン	サーバ上でプロキシを設定し、すべての開始要求を指定されたドメインの宛先に送信します。コロンは必須です。
	:ポート番号	(オプション)セッション開始プロトコル (SIP) サーバのポート番号。コロンが必要です。

コマンド デフォルト

Anoutboundproxyisnotconfigured.

コマンド モード

ダイヤル ピア構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)T	このコマンドが導入されました。
12.4(22)T	このコマンドは変更されました。IPv6 のサポートが追加されました。
12.4(22)YB	このコマンドは変更されました。dhcp キーワードが追加されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

ダイヤルピア設定モードの **voice-classsipoutbound-proxy** コマンドは、SIP グローバル設定モードのコマンドよりも優先されます。

IPv6 アドレスを括弧で囲む必要があります。

例

次の例は、ダイヤル ピアでコマンドを設定して、発信プロキシとして IPv4 アドレス ((10.1.1.1)) を生成する方法を示しています。 **voice-classsipoutbound-proxy**

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# dial
-peervoice111voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip outbound-proxy ipv4:10.1.1.1
```

次の例は、ダイヤル ピアでコマンドを設定して、発信プロキシとしてドメイン (sipproxy:cisco.com) を生成する方法を示しています。 **voice-classsipoutbound-proxy**

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# dial
-peervoice111voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip outbound-proxy dns:sipproxy:cisco.com
```

次の例は、ダイヤル ピアでコマンドを設定し、DHCP を使用して発信プロキシを生成する方法を示しています。 **voice-classsipoutbound-proxy**

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# dial
-peervoice111voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip outbound-proxy dhcp
```

関連コマンド

コマンド	description
dial-peervoice	特定のダイヤルピアを定義し、音声カプセル化の方法を指定して、ダイヤルピア設定モードに入ります。
voicesservice	音声サービス設定モードに入り、音声カプセル化タイプを指定します。

voice-class sip preloaded-route

dial-peer Session Initiation Protocol (SIP) 呼び出しに対して事前ロードされたルートをサポートを有効にするには、dial peer voice 構成モードで、**voice-classsippreloaded-route** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsippreloaded-route {[sip-server]service-route | system}
novoice-classsippreloaded-route

構文の説明

sip-server	(オプション) Route ヘッダーに SIP サーバ情報を追加します。
service-route	Route ヘッダーに Service-Route 情報を追加します。
system	グローバルシステム値を使用します。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

SIP 呼び出しはダイヤルピアレベルで、グローバル構成レベルの設定を使用します。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

voice-classsippreloaded-route コマンドは、SIP 構成モードで、構成した **preloaded-route** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-classsippreloaded-route** コマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイは **preloaded-route** コマンドによって設定されたグローバル設定を使用します。

例

以下の例は、Route ヘッダーに SIP サーバと Service-Route 情報を含めるようにダイヤルピアを設定する方法を示します。

```
dial-peer voice 102 voip
  voice-class sip preloaded-route sip-server service-route
```

以下の例では、Route ヘッダーに Service-Route 情報のみを含めるようにダイヤルピアを設定する方法を示します。

```
dial-peer voice 102 voip
  voice-class sip preloaded-route service-route
```

関連コマンド

コマンド	description
preloaded-route	VoIP SIP 通話用の事前ロードされたルートをサポートを有効にします。

voice-class sip プライバシー

RFC 3323 で定義されているとおり dial-peer レベルでプライバシーサポートを設定するには、dial peer 構成モードで、**voice-classsipprivacy** コマンドを使用します。RFC 3323 で定義されているプライバシーサポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipprivacy {**disable** | **pstn** | **system** | *privacy-option*[**critical**]}
novoice-classsipprivacy

構文の説明

disable	以前の実装に関係なく、このダイヤルピアのプライバシーサービスを無効にします。選択すると、これが唯一の有効なオプションになります。
pstn	プライバシーのための既定の公衆交換電話網 (PSTN) ルール (情報は Octet 3a) を使用して、プライバシーサービスがプライバシーヘッダーを実装するように要求します。選択すると、これが唯一の有効なオプションになります。
system	グローバル構成設定を使用して、このダイヤルピアでプライバシーサービスを有効にします。選択すると、これが唯一の有効なオプションになります。
プライバシー オプション	<p>ダイヤルピアレベルで設定するプライバシーサポートオプション。 <i>privacy-option</i> 引数には、次のキーワードを指定することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • header -- 加入者に関する情報を識別する可能性のあるセッション開始プロトコル (SIP) メッセージのすべてのヘッダーに対してプライバシーを適用することを要求します。 • history -- history-info ヘッダーに保持されている情報が信頼ドメインの外部に隠されるように要求します。 • id -- ユーザを認証したネットワーク アサート ID を、信頼されたドメイン外の SIP エンティティに対して非公開にすることを要求します。 • session -- セッション記述に保持されている情報が信頼ドメインの外部で非表示になるように要求します。 • user -- プライバシー サービスがユーザレベルのプライバシー機能を提供するよう要求します。 <p>(注) キーワードは、単独で、またはまとめて、または任意の組み合わせで使用できますが、各キーワードは 1 回だけ使用できます。</p>

critical	<p>(オプション) プライバシーサービスが指定されたサービスを実行するか、またはリクエストを失敗させるよう要求します。</p> <p>(注) このオプションキーワードは、<i>privacy-option</i> キーワード (header、history、id、session、または user) の少なくとも 1 つが指定された後にのみ使用可能であり、コマンドごとに 1 回だけ使用できます。</p>
-----------------	--

コマンドデフォルト プライバシーサポートが無効になっています。

コマンドモード ダイアル ピア構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(15)T	このコマンドが導入されました。
	12.4(22)T	history-info ヘッダー情報のサポートを提供するために、 history キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン **voice-classsipprivacy** コマンドを使用して、ダイアルピアレベルの送信 SIP 要求メッセージに、RFC 3323 でサポートされている値に設定された Proxy-Require ヘッダーを追加するようにゲートウェイに指示します。

voice-classsipprivacritical コマンドを使用して、値が **critical** に設定された Proxy-Require ヘッダーを追加するようにゲートウェイに指示します。ユーザエージェントが、プライバシー拡張機能をサポートしていない中間者にリクエストを送信する場合、リクエストは失敗します。

voice-classsipprivacy コマンドは、voice service VoIP SIP 設定モードでは **privacy** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-classsipprivacy** コマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイは **privacy** コマンドによってグローバルに構成された設定を使用します。

例

次の例は、ダイアル ピア 2 のプライバシーを無効にする方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2 voip

Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy disable
```

次の例は、history-info ヘッダーに保持されている情報が信頼ドメインの外部に隠されるように **voice-classsipprivacy** コマンドを構成する方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2 voip
```

```
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy history
```

関連コマンド

コマンド	description
asserted-id	プライバシーレベルを設定し、発信 SIP 要求または応答メッセージで PAI または PPI プライバシーヘッダーを有効にします。
calling-infopstn-to-sip	PSTN から SIP への通話の発信情報の処理を指定します。
clid (voice service VoIP)	ネットワークが提供する ISDN 番号を ISDN 発呼者情報要素スクリーニングインジケータフィールドに渡し、voice service VoIP 設定モードの発信回線識別子から、発呼者名と番号を削除し、または、Remote-Party-ID と From ヘッダーの欠落している表示名フィールドを代替して発信番号の表示を許可します。
privacy	RFC 3323 で定義されているように、グローバルレベルでプライバシーサポートを設定します。

voice-class sip privacy-policy

ダイヤルピア レベルでプライバシーヘッダー ポリシー オプションを設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipprivacy-policy** コマンドを使用します。プライバシーポリシー オプションを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice-classsipprivacy-policy {passthru | send-always | strip {diversion | history-info}}[system]
no voice-classsipprivacy-policy {passthru | send-always | strip {diversion | history-info}}
```

構文の説明

passthru	受信したメッセージからプライバシー値を次のコール レッグに渡します。
send-always	受信したメッセージにプライバシー値が含まれていないが、プライバシーヘッダーが必要な場合、値なしのプライバシーヘッダーを次のコールレッグに渡します。
strip	次のコール レッグから受信した転送ヘッダーまたは履歴情報ヘッダーを削除します。
diversion	次のコール レッグから受信した転送ヘッダーを削除します。
history-info	次のコール レッグから受信した history-info ヘッダーを削除します。
system	(オプション) グローバル構成設定を使用してダイヤルピアを設定します。

コマンド デフォルト

プライバシーポリシー設定が構成されていません。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。
15.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(2)T に統合されました。 strip 、 diversion 、 history-info キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

受信したメッセージにプライバシー値が含まれている場合は、**voice-classsipprivacy-policypassthru** コマンドを使用して、プライバシー値が 1 つのコール レッグから次のコール レッグに渡されるようにします。受信したメッセージにプライバシー値が含まれていないが、プライバシーヘッダーが必要な場合は、**voice-classsipprivacy-policysend-always** コマンドを使用してプライバシーヘッダーを None に設定し、メッセージを次のコール レッグに転送します。両方のオプションを同時にサポートするようにシステムを構成できます。

voice-classsipprivacy-policy コマンドは、service voip sip 構成モードでの **privacy-policy** コマンドより優先されます。ただし、**voice-classsipprivacy-policy** コマンドを **system** キーワードとともに

に使用した場合、ゲートウェイは **privacy-policy** コマンドによってグローバルに構成された設定を使用します。

例

次の例は、ダイヤルピアでパススルー プライバシー ポリシーを有効にする方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2611 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy passthru
```

次の例は、ダイヤルピアでパススルー、常時送信、およびストリップポリシーを有効にする方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2611 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy passthru
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy send-always
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy strip diversion
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy strip history-info
```

次の例は、ダイヤルピアで send-always プライバシー ポリシーを有効にする方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2611 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy send-always
```

次の例は、ダイヤルピアでパススループライバシーポリシーと常時送信プライバシーポリシーの両方を有効にする方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2611 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy passthru
Router(config-dial-peer)# voice-class sip privacy-policy send-always
```

関連コマンド

コマンド	description
asserted-id	プライバシーレベルを設定し、発信 SIP 要求または応答メッセージで、PAID または PPID プライバシーヘッダーを有効にします。
privacy-policy	グローバル構成レベルでプライバシー ヘッダー ポリシー オプションを構成します。

voice-class sip random-contact

(明確な連絡先情報の代わりに) random-contact 情報が含まれる発信 INVITE メッセージをダイヤルピアレベルで入力するには、dial peer voice 構成モードで、**voice-classsiprandom-contact** コマンドを使用します。ランダムな連絡先情報を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsiprandom-contact[system]
novoice-classsiprandom-contact

構文の説明

system	(オプション)グローバル構成設定を使用して、INVITEメッセージにランダムな連絡先情報を入力します。
---------------	---

コマンド デフォルト

ダイヤルピアレベルでのランダムな連絡先をサポートするには、global 構成レベルの設定を使用する必要があります。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

(明確な連絡先情報の代わりに) random-contact 情報が含まれる発信 INVITE メッセージ (Cisco Unified Border Element から)をダイヤルピアレベルで入力するには、**voice-classsiprandom-contact** コマンドを使用します。この機能は、**credentials** および **registrar** コマンドを使用して、Cisco Unified Border Element が random-contact を含む SIP 登録用に構成されている場合のみ動作します。

voice-classsiprandom-contact コマンドは、service voip sip 構成モードでの **random-contact** コマンドより優先されます。ただし、**voice-classsiprandom-contact** コマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイは **random-contact** コマンドによってグローバルに構成された設定を使用します。

例

次の例は、random-contact 情報が含まれるダイヤルピアレベルの発信 INVITE メッセージの入力方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2611 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip random-contact
```

関連コマンド

コマンド	description
credentials (sip ua)	UP 状態の Cisco Unified Border Element から SIP 登録メッセージを送信します。
registrar	SIP ゲートウェイが FXS、EFXS、SCCP 電話の代わりに E.164 番号を外部 SIP プロキシまたは SIP レジストラに登録できるようにします。
random-contact	送信 INVITE メッセージに、グローバル レベルでランダムな連絡先情報を入力します。

voice-class sip random-request-uri validate

ダイヤルピア設定レベルで番号の登録中に生成されたランダム値に基づいて着信番号の検証を有効にするには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsiprandom-request-urivalidate** コマンドを使用します。検証を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsiprandom-request-urivalidate[system]
novoice-classsiprandom-request-urivalidate

構文の説明

system	(オプション) グローバル構成設定を使用して、このダイヤルピアでの着信番号検証を有効にします。
---------------	---

コマンド デフォルト

検証が無効になっています。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

新しい番号を登録する際、システムはランダムな文字列を生成します。P-Called-Party-ID 値を持つ INVITE メッセージは、このランダムな番号に設定された Request-URI を持つことができます。システムが Request-URI 内のランダム番号から着信番号を識別できるようにするには、着信ダイヤルピアで **voice-classsiprandom-request-urivalidate** コマンドを使用します。

P-Called-Party-ID が、INVITE メッセージで設定されていない場合、そのメッセージの Request-URI は、着信側情報を含む必要があります (ランダム番号を含むことはできません)。そのため、検証は P-Called-Party-ID を持つ INVITE メッセージに対してのみ実行されます。

voice-classsiprandom-request-urivalidate コマンドは、voice service VoIP SIP 設定モードでは **random-request-urivalidate** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-classsiprandom-request-urivalidate** コマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイは **random-request-urivalidate** コマンドによってグローバルに構成された設定を使用します。

例

次の例は、ダイヤルピア設定レベルで P-Called-Party-ID ヘッダー値に基づいてコールルーティングを有効にする方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 2611 voip
```

voice-class sip random-request-uri validate

```
Router(config-dial-peer)# voice-class sip random-request-uri validate
```

関連コマンド

コマンド	description
credentials (sip ua)	UP 状態の Cisco Unified Border Element から SIP 登録メッセージを送信します。
random-request-urivalidate	グローバル設定レベルでの番号の登録中に生成されたランダム値に基づいて、着信番号を検証します。
registrar	SIP ゲートウェイが FXS、EFXS、SCCP 電話の代わりに E.164 番号を外部 SIP プロキシまたは SIP レジストラに登録できるようにします。

voice-class sip referto-passing

指定されたダイヤル ピアの Cisco Unified Border Element (UBE) での REFER メッセージのパススルー中に Refer-To ヘッダーの変更を無効にするには、ダイヤル ピア音声設定モードで **voice-classsipreferto-passing** コマンドを使用します。Cisco UBE での REFER メッセージのパススルー中に Refer-To ヘッダーの変更を許可するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipreferto-passing[system]
novoice-classsipreferto-passing

構文の説明	system (オプション) global 構成モードで構成した referto-passing コマンドを有効にします。
-------	---

コマンド デフォルト Refer-To ヘッダーの変更が有効になっています。

コマンド モード Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.2(1)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **voice-classsipreferto-passing** コマンドのダイヤルピア構成設定は、**referto-passing** コマンドのグローバル構成設定よりも優先されます。**system** キーワードを使用して優先順位を切り替えることができます。

例

次の例は、ダイヤル ピア 22 の Cisco UBE で REFER メッセージのパススルーを有効にする方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 22 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip referto-passing
```

関連コマンド	コマンド	description
	dial-peervoice	特定のダイヤル ピアを定義し、カプセル化の方法を指定して、ダイヤル ピア音声設定モードに入ります。
	referto-passing	Cisco UBE がコール転送中に REFER メッセージを渡すときに、ダイヤル ピア検索と Refer-To ヘッダーの変更を無効にします。

voice-class sip registration passthrough

ダイヤルピアで Session Initiation Protocol (SIP) 登録パススルー オプションを設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipregistrationpassthrough** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipregistrationpassthrough[[static][rate-limit[expires値][fail-count値]][registrar-index[インデックス]] | system]
novoice-classsipregistrationpassthrough

構文の説明

static	(オプション)SIP 登録に静的なレジストラの詳細を使用するように、Cisco Unified Border Element (UBE) を設定します。 static キーワードが使用されると、Cisco UBE はポイントツーポイント モードで動作します。
rate-limit	(オプション) SIP 登録パススルー レート制限オプションを設定します。
expiresvalue	(オプション) レート制限の有効期限値を秒単位で設定します。 範囲は 60 ~ 65535 です。デフォルト値は 3600 です。
fail-countvalue	(オプション) レート制限の失敗カウント値を設定します。 範囲は 2 ~ 20 です。デフォルト値は 0 です。
registrar-index	(オプション)登録パススルーに使用されるレジストラインデックスを設定します。
インデックス	(オプション) 登録インデックス値。 値の範囲は 1 ~ 6 です。
system	(オプション) グローバル登録パススルー設定を使用して、SIP 登録パススルーオプションを設定します。

コマンド デフォルト

グローバル レベルで設定されている SIP 登録パススルー オプションが設定されます。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
15.1(3)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

voice-classsipregistrationpassthrough コマンドを使用して、ダイヤルピアで次の SIP パススルー機能を設定できます。

- バックツーバック登録機能により、コールルーティングの電話を登録できます。
- 有効期限、失敗回数、登録に使用されるレジストラのリストなど、レート制限値を設定するオプション。

例

次の例は、SIP 登録パススルー レート制限のレジストラ インデックスを 1 に設定する方法を示しています。

```
Router# configure terminal  
Router(config)# dial-peer voice 444 voip  
Router(config-dial-peer)# voice-class sip registration passthrough static rate-limit  
registrar-index 1
```

関連コマンド

コマンド	description
registrationpassthrough	グローバルレベルでSIP登録パススルーオプションを設定します。

voice-class sip rel1xx

すべての Session Initiation Protocol (SIP) 暫定応答 (100 Trying 以外) をリモート SIP エンドポイントに確実に送信できるようにするには、`dial-peer` 構成モードで、`voice-classsiprel1xx` コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`voice-classsiprel1xx {supported値 | require値 | system | disable}`
`nosiprel1xx`

構文の説明

supported value	信頼できる暫定応答をサポートします。value 引数には任意の値を指定できますが、ユーザエージェントクライアント (UAC) とユーザエージェントサーバ (UAS) の両方で同じように設定されている必要があります。
require value	信頼できる暫定応答が必要です。value 引数は、どのような値でもかまいません、ただしUACとUASの両方で同じ値に設定される必要があります。
system	音声サービス モードで設定された値を使用します。これはデフォルトです。
disable	信頼できる暫定応答の使用を無効にします。

コマンド デフォルト

`system`

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドは、このリリースでは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に適用できました。

使用上のガイドライン

信頼できる暫定応答を設定するには、2つの方法があります。

- Dial-peer モード。 `voice-classsiprel1xx` コマンドを使用することによってのみ、特定のダイヤルピアに対して信頼性の高い暫定応答を設定できます。
- SIP モード。 `rel1xx` コマンドを使用して、信頼性の高い暫定応答をグローバルに設定できます。

SIPでのリソース予約の使用は、SIPの信頼できる暫定機能がVoIPダイヤルピアレベルで、またはルーター全体で有効にする必要があります。

このコマンドは、それが使用されるダイヤルピアに適用されるか、信頼性の高い暫定応答のグローバル設定を指します。コマンドを **supported** キーワードとともに使用すると、SIPゲートウェイは送信 SIP INVITE 要求で Supported ヘッダーを使用します。 **require** キーワードと一緒に使用すると、ゲートウェイは Required ヘッダーを使用します。

ダイヤルピア設定モードのこのコマンドは、グローバル設定モードの **rel1xx** コマンドよりも優先されますが、次の1つの例外があります: このコマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイはグローバル設定モードの **rel1xx** コマンドで設定された内容を使用します。

例

次の例は、発信側または着信側の SIP ゲートウェイでこのコマンドを使用する方法を示しています。

- 発信元ゲートウェイでは、このダイヤルピアに一致するすべての発信 SIP INVITE 要求に、値 が 100rel である Supported ヘッダーが含まれます。
- 終端ゲートウェイでは、このダイヤルピアに一致する受信したすべての SIP INVITE 要求が、信頼性の高い暫定応答をサポートします。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip rel1xx supported 100rel
```

関連コマンド

コマン ド	description
rel1xx	すべてのVoIP通話に対して暫定的な応答を提供します。

voice-class sip requiri-passing

セッション開始プロトコル (SIP) Uniform Resource Locator (URI) ヘッダーのパススルーを有効にするには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-class sip requiri-passing** コマンドを使用します。この構成を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip requiri-passing [system]
no voice-class sip requiri-passing

構文の説明

system (省略可能)

コマンド デフォルト

SIP URI ヘッダーのパススルーは無効になっていません。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース 変更
 ス

15.4(1)T このコマンドが導入されました。

例

次の例は、**voice-class sip requiri-passing** コマンドを使用して SIP URI ヘッダーのパススルーを有効にする方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice class uri mydesturi sip
Device(config-voice-uri-class)# host example.com
Device(config-voice-uri-class)# exit
Device(config)# dial-peer voice 22 voip
Device(config-dial-peer)# session protocol sipv2
Device(config)# destination uri mydesturi
Device(config-dial-peer)# session target ipv4:10.1.1.2
Device(config-dial-peer)# voice-class sip requiri-passing system
Device(config-dial-peer)# end
```

関連コマンド

コマンド	description
contact-passing	302 パススルーの一方のレッグから他方のレッグへの連絡先ヘッダーのパススルーを設定します。
requiri-passing	Request-URI および To SIP ヘッダーのホスト部分のパススルーを有効にします。
session target sip-uri	着信 URI から session target を導出します。

コマンド	description
voice-class sip requi-passing	SIP URI ヘッダーのパススルーを有効にします。

voice-class sip reset timer expires

Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME)、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、または Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) 上の個々のダイヤルピアが、Session Initiation Protocol (SIP) 183 Session In Progress メッセージの受信時に有効期限タイマーをリセットするように設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipresettimerexpires** コマンドを使用します。SIP 183 メッセージの受信時に有効期限タイマーのリセットをグローバルに無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipresettimerexpires183
novoice-classsipresettimerexpires183

構文の説明

183	SIP 183 Session In Progress メッセージの受信時に有効期限タイマーをリセットすることを指定します。
------------	--

コマンド デフォルト

期限切れタイマーは SIP 183 セッション進行中メッセージの受信後にリセットされず、既定の有効期限時間 (3 分) 内に接続されなかったセッションまたは通話はドロップされます。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)XA	このコマンドが導入されました。
15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン

一部のシナリオでは、早期メディアカットスルーコール(緊急通話など)は SIP 183 とセッション記述プロトコル (SDP) Session In Progress メッセージに依存しており、FINAL SIP 200 OK メッセージを受信するまで、セッションまたは通話を維持します。これは通話が接続されたことを示します。これらのシナリオでは、既定の有効期間 (3 分) 内に接続されない場合、通話はタイムアウトになり、ドロップされる場合があります。



(注) 期限切れタイマーのデフォルト値は 3 分です。ただし、SIP ユーザーエージェント (UA) 設定モードで **timerexpires** コマンドを使用すると、有効期限を最大 30 分に設定できます。

早期メディア カットスルー コールが期限切れタイマー制限に達したために特定のダイヤルピアでドロップされないようにするには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipresettimerexpires** コマンドを使用します。

Cisco Unified CME、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、Cisco UBE ですべてのダイヤルピアをグローバルに構成して、SIP 183 メッセージ受信時に有効期限タイマーをリセットするには、**voice service SIP** 構成モードで、**resettimerexpires** コマンドを使用します。個々のダイヤルピアの

SIP 183 メッセージの受信時に有効期限タイマーがリセットされないようにするには、ダイヤルピア音声設定モードで **novoice-classsipresettimerexpires** コマンドを使用します。

例

次の例は、SIP 183 メッセージを受信するたびに有効期限タイマーをリセットするように、Cisco Unified CME、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、または Cisco UBE 上のダイヤルピア 1 を設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# dial-peer voice 1 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip reset timer expires 183
```

関連コマンド

コマンド	description
resettimerexpires	SIP 183 メッセージの受信時に有効期限タイマーをリセットするように、Cisco Unified CME、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、または Cisco UBE をグローバルに設定します。
timerexpires	セッションを維持するための適切な応答が受信されない場合に、SIP INVITE 要求がタイムアウトになるまでの有効期間を指定します。

音声クラス SIP リソース優先度 DSCP プロファイル

ダイヤルピアに differentiated services code point (DSCP) プロファイルを適用するには、`dial peer voice` 構成モードで、**voice-class sip resource priority dscp-profile** を使用します。この構成を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip resource priority dscp-profile tag
no voice-class sip resource priority dscp-profile

構文の説明	タグ	DSCP プロファイル グループ タグ番号。値の範囲は 1 ~ 10000 です。
-------	----	---

コマンド デフォルト DSCP プロファイルは適用されません。

コマンド モード Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **voice-class sip resource priority dscp-profile** コマンドを使用して、ダイヤルピアに対して **dscp media** コマンドを使用して設定された DSCP プロファイルを適用できます。

例 次の例は、ダイヤルピアの DSCP プロファイルを設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# dial-peer voice 4 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip resource priority dscp-profile 1
```

関連コマンド	コマンド	description
	dial-peer voice	ダイヤルピアを設定し、ダイヤルピア音声設定モードに入ります。
	dscp media	RPH から DSCP へのマッピングを指定します。

voice-class sip resource priority mode (dial-peer)

ユーザアクセスサーバ(UAS)をルーズモードまたはストリクトモードで動作するようにプッシュするには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipresourceprioritymode** コマンドを使用します。**voice-classsipresourceprioritymode**を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipresourceprioritymode[loose | strict]
novoice-classsipresourceprioritymode[loose | strict]

構文の説明

loose	(オプション)ルーズモードでは、Session Initiation Protocol (SIP) リクエストの Resource-Priorityヘッダーで受信された名前空間の不明な値または優先度の値は、ゲートウェイによって無視されます。要求は、Resource-Priorityヘッダーが存在しないかのように処理されます。
strict	(オプション)厳密モードでは、SIP要求の Resource-Priorityヘッダーで受信された名前空間の不明な値または優先度の値は、ゲートウェイによって SIP 応答コード 417 (不明な Resource-Priority) メッセージ応答を使用して拒否されます。サポートされている名前空間と値を列挙する Accept-Resource-Priorityヘッダーが、417メッセージ応答に含まれません。

コマンドデフォルト

デフォルト値は **loosemode** です。

コマンドモード

Dial peer voice 構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの **no** バージョンを実行すると、呼び出しは **loose** モードで動作します。

例

次の例は、**voice-classsipresourceprioritymode** コマンドをルーズモードで設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip resource priority mode loose
```

次の例は、**voice-classsipresourceprioritymode** コマンドを厳密モードで設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip resource priority mode strict
```

関連コマンド

コマンド	description
voice-class sip resource priority namespace	初回の発信 INVITE メッセージリクエストに対して、優先度に基づく必須の通話優先制御を処理します。

音声クラス SIP リソース優先度名前空間 (dial-peer)

最初のオリジナル INVITE メッセージ要求に対する必須コール優先順位付け処理を優先するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipresourceprioritynamespace** コマンドを使用します。 **voice-classsipresourceprioritynamespace** コマンドを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipresourceprioritynamespace[drsn | dsn | q735]
novoice-classsipresourceprioritynamespace[drsn | dsn | q735]

構文の説明

drsn	(オプション) 米国国防総省レッドスイッチドネットワーク (DRSN)。
dsn	(オプション) U.S. Defense Switched Network (DSN)。
q735	(オプション) International Telecommunications Union、 <i>Stage 3 description for community of interest supplementary services using Signaling System No. 7: Multilevel precedence and preemption, Recommendation Q.735.3</i> 、1993 年 3 月

コマンド デフォルト

このコマンドの **no** バージョンを namespace を使用して実行すると、Cisco IOS ゲートウェイは PSTN 側で受信した Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 値を透過的に渡します。

コマンド モード

Dial peer voice 構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ネームスペースを使用してこのコマンドの **no** バージョンを実行すると、Cisco IOS ゲートウェイは PSTN 側で受信した MLPP 値を透過的に渡します。

例

次の例は、米国 DSN 形式の名前空間で **voice-classsipresourceprioritynamespace** コマンドを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip resource priority namespace dsn
```

次の例は、米国 DRSN 形式の名前空間で **voice-classsipresourceprioritynamespace** コマンドを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip resource priority namespace drsn
```

次の例は、パブリック SS7 ネットワーク形式の名前空間で **voice-classsipresourceprioritynamespace** コマンドを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip resource priority namespace q735
```

関連コマンド

コマンド	description
voice-class sip resource priority mode	UAS を緩いモードまたは厳密なモードで動作するようにプッシュします。

voice-class sip rsvp-fail-policy

Resource Reservation Protocol (RSVP) ネゴシエーションに失敗した場合に Cisco IOS Session Initiation Protocol (SIP) ゲートウェイのダイヤルピアレベルでの操作を指定するには、`dial peer` 構成モードで、**voice-classsiprsvp-fail-policy** コマンドを使用します。失敗の動作をデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsiprsvp-fail-policy {**video** | **voice**}**post-alert** {**optional****keep-alive** | **mandatory** {**keep-alive** | **disconnect****retry**再試行回数};**interval**秒
no**voice-classsiprsvp-fail-policy** {**video** | **voice**}**post-alert** {**optional**[**keep-alive**] | **mandatory**[**keep-alive** | **disconnect****retry**再試行回数]}[**interval**秒]

構文の説明

video	ビデオ RSVP ストリーム タイプを指定します。
voice	オーディオまたはファックスの RSVP ストリーム タイプを指定します。
post-alert	この動作は、通話状態が [ポストアラート] の場合にのみ行われることを指定します。
optional	RSVP ネゴシエーションがオプションであっても、RSVP が失敗した場合に動作が行われるように指定します。
mandatory	RSVP ネゴシエーションが必須の場合にのみ、RSVP が失敗したときに動作が実行されることを指定します。
keep-alive	RSVP が失敗した場合にキープアライブメッセージを送信することを指定します。
disconnect	指定された再試行回数後に RSVP が失敗した場合に通話を切断することを指定します。
retry	通話を切断する前に再接続を試行する回数を指定します。
再試行回数	再試行回数。有効なエント리는 1 から 100 までです。
interval	キープアライブまたは再試行の間隔を指定します。
秒	再試行間隔 (秒単位)。有効なエント리는 5 から 3600 までです。

コマンドデフォルト

キープアライブメッセージは、RSVP ネゴシエーション設定 (必須またはオプション) に関係なく、`post alert voice` または `video call` が RSVP ネゴシエーションに失敗した場合に、30 秒ごとに送信されます。

コマンドモード

ダイヤル ピア構成 (`config-dial-peer`)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、通話がRSVP ネゴシエーションに失敗した場合の通話処理動作を設定します。オプションまたは必須のRSVP ネゴシエーションのいずれかで実行される動作を構成できますが、その動作はポストアラート状態の通話にのみ適用されます。RSVP ネゴシエーションが失敗したときに実行される動作を設定するには、ダイヤルピア設定モードで **voice-class sip rsvp-fail-policy** コマンドを使用します。

通話が、任意で行う RSVP ネゴシエーションに失敗した場合、RSVP ネゴシエーションが成功するまで、指定された間隔でキープアライブ機能を使用してネゴシエーションを再試行する必要があります。

ネゴシエーションが必須である RSVP ネゴシエーションで通話が失敗した場合、次の2つの方法のいずれかで RSVP ネゴシエーションを設定する必要があります。

- RSVP ネゴシエーションに失敗した通話は、指定された間隔で再試行が行われ、指定された回数だけ RSVP の再ネゴシエーションが試行された後に切断されます。これらの再試行中にネゴシエーションが成功すると、カウンターとタイマーはゼロにリセットされます。
- RSVP ネゴシエーションに失敗した通話は、ネゴシエーションが成功するまで、指定された間隔で送信されるキープアライブ メッセージによって維持されます。

例

次の例は、ネゴシエーションがオプションの場合に、RSVP ネゴシエーションに失敗した通話に対して 60 秒間隔でキープアライブ メッセージを送信するように指定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip rsvp-fail-policy voice post-alert optional
keep-alive interval 60
```

関連コマンド	コマンド	description
	acc-qos	VoIP ダイヤル ピア上の着信コールと発信コールの許容可能な QoS を定義します。
	handle-replaces	SIP INVITE の従来の処理へのフォールバックを設定します。
	ipqosdefending-priority	RSVP 防御優先度値を設定します。
	ipqosdscp	QoS の DSCP 値を設定します。
	ipqospolicy-locator	帯域幅予約を指定するために使用されるアプリケーション固有の予約 (アプリケーション ID) を構成します。
	ipqospreemption-priority	RSVP プリエンプションの優先度値を設定します。

コマンド	description
req-qos	RSVP を使用して、VoIP で指定されたダイヤルピアに到達するための特定の QoS を要求します。
show-sip-uacalls	SIP 通話のアクティブな UAC および UAS 情報を表示します。

voice-class sip send 180 sdp

着信 180 セッション記述プロトコル (SDP) メッセージを 180 SDP メッセージにマッピングするように Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) を設定するには、ダイヤルピア音声設定モードまたは SIP 設定モードで **voice-class sip send 180 sdp** コマンドを使用します。この機能が無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip send 180 sdp
no voice-class sip send 180 sdp

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

このコマンドは無効になっています。Cisco UBE は、着信 180 SDP メッセージを 183 SDP メッセージに変換します。

コマンド モード

ダイヤルピア音声設定 (config-dialpeer)

SIP 構成 (conf-serv-sip)

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、着信ダイヤルピアで有効にする必要があります。 **voice-class sip send 180 sdp** コマンドを有効にして、180 SDP メッセージを 180 SDP メッセージにマッピングします。このコマンドが無効にすると、着信 180 SDP (呼び出し中) メッセージは 183 SDP (セッション進行中) メッセージにマッピングされます。

例

次の例は、ダイヤルピアレベルで **voice-class sip send 180 sdp** を構成する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dial peer voice
Device(config-dialpeer)# voice-class sip send 180 sdp
Device(config-dialpeer)# exit
```

関連コマンド

コマンド	description
voice-class sip block	Cisco IOS 音声ゲートウェイまたは Cisco UBE 上の個々のダイヤルピアを設定して、特定の着信セッション開始プロトコル (SIP) 暫定応答メッセージをドロップ (通過させない) します。

voice-class sip srtp-auth



- (注) 有効な Cisco IOS XE Everest リリース 16.5.1b では、**srtp-auth** コマンドは非推奨です。このコマンドは Cisco IOS XE Everest ソフトウェアでも引き続き使用できますが、このコマンドを実行しても設定は変更されません。優先暗号スイートを使用して SRTP 接続を構成するには、**voice class srtp-crypto** コマンドを使用します。詳細については、[voice-class sip srtp-crypto \(55 ページ\)](#) コマンドのドキュメントを参照してください。

ダイヤルピアレベルで優先暗号スイートを使用して Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) 上で Secure Real-time Transport Protocol (SRTP) 接続を設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-class sip srtp-auth** コマンドを使用します。この構成を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip srtp-auth { sha-32 | sha-80 | system }
no voice-class sip srtp-auth

構文の説明

sha-32 AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 認証スイートによる安全な通話を許可します。

sha-80 AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 認証スイートによる安全な通話を許可します。

system グローバル構成を使用します。

コマンドデフォルト

SHA-32 暗号スイートはデフォルトで構成されています。

コマンドモード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
15.4(1)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Everest 16.5.1b	このコマンドは非推奨になりました。

使用上のガイドライン

グローバルレベルで設定された暗号スイートを使用するには、**system** コマンドで **voice-class sip srtp-auth** キーワードを使用します。

例

次の例は、AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 暗号スイートを使用してダイヤルピアレベルで Cisco UBE の SRTP 接続を設定する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dial-peer voice 15 voip
Device(config-dial-peer)# voice-class sip srtp-auth sha1-80
```

関連コマンド

コマンド	description
srtp-auth	優先暗号スイートを使用して、Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) 上の Secure Real-time Transport Protocol (SRTP) 接続をグローバルレベルで設定します。
show sip-ua srtp	セッション開始プロトコル (SIP) ユーザー エージェント (UA) のセキュアリアルタイムトランスポートプロトコル (SRTP) 情報を表示します。

voice-class sip srtp-crypto

以前に設定した暗号スイート選択設定をダイヤルピアに割り当てるには、**voice-class sip srtp-crypto** コマンドを使用します。ダイヤルピアから暗号スイート設定を削除し、デフォルトの設定リストに戻すには、このコマンドの **no** または **default** 形式を使用します。

```
voice-class sip srtp-crypto crypto-tag
no voice-class sip srtp-crypto
default voice-class sip srtp-crypto
```

構文の説明

crypto-tag 音声クラスに割り当てられた一意の番号。値の範囲は 1 ~ 10000 です。

この番号は、グローバル コンフィギュレーション モードで使用可能な **voice class srtp-crypto** コマンドを使用して作成されたタグにマッピングされます。

コマンド デフォルト

ダイヤルピアに暗号スイートの優先順位は割り当てられていません。

コマンド モード

ダイヤルピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE Everest 16.5.1b	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



- (注) global 構成モードまたは tenant 構成モードで **voice-class sip srtp-crypto *crypto tag*** コマンドを実行して *crypto-tag* を適用する前に、**voice class srtp-crypto *crypto-tag*** コマンドを使用して **srtp voice-class** を作成します。

割り当てることができる暗号タグは1つだけです。別の暗号タグを割り当てると、最後に割り当てられた暗号タグが前の暗号タグに置き換えられます。

例

```
Device enable
Device# configure terminal
Device(config)# dial-peer voice 300 voip
Device(config-dial-peer)# voice-class sip srtp-crypto 102
```

関連コマンド

コマンド	description
srtp-crypto	以前に構成された暗号スイート選択優先リストをグローバルに、または音声クラス テナントに割り当てます。

コマンド	description
crypto	オファーとアンサーで SDP 内の Cisco Unified Border Element (CUBE) によって提供される SRTP 暗号スイートの優先順位を指定します。
show sip-ua calls	セッション開始プロトコル (SIP) 通話のアクティブなユーザー エージェント クライアント (UAC) およびユーザー エージェント サーバー (UAS) の情報を表示します。
show sip-ua srtp	セッション開始プロトコル (SIP) ユーザー エージェント (UA) のセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル (SRTP) 情報を表示します。

voice-class sip srtp negotiate

Secure Real-Time Transport Protocol (SRTP) ネゴシエーションを有効にして、Cisco IOS Session Initiation Protocol (SIP) ゲートウェイの個々のダイヤルピアを許可して、応答で RTP Audio/Video Profile (AVP) を RTP Secure AVP オフラー (SRTP プロファイルとも呼ばれる) に送信するには、dial peer voice 構成モードで、**voice-classsipsrtpnegotiate** コマンドを使用します。ダイヤルピアで、デフォルトの(グローバル) SRTP ネゴシエーション設定に戻るには、**system** キーワードを使用します。ダイヤルピアでの SRTP ネゴシエーションを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsipsrtpnegotiate {cisco | system}
no voice-classsipsrtpnegotiate

構文の説明

cisco	Cisco IOS SIP ゲートウェイ上の個々のダイヤルピアが、ゲートウェイのグローバル設定を上書きして、SRTP オフラーに回答して RTP プロファイルの送信と受け入れをネゴシエートできるようにします。
system	個々のダイヤルピアが Cisco IOS SIP ゲートウェイのグローバル (システム) SRTP ネゴシエーション設定を使用することを指定します。これがデフォルト設定です。

コマンド デフォルト

SRTP ネゴシエーションは、Cisco IOS ゲートウェイのグローバル設定によって決定されます (**voice-classsipsrtpnegotiatesystem**)。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)XY	このコマンドが導入されました。
12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。
12.4(22)T	Cisco Unified Border Element までサポートが拡張されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、SIP ゲートウェイ (または SIP ゲートウェイ上の個々のダイヤルピア) は SIP 4xx メッセージ応答を使用して SRTP フォールバックを許可できるようになります。**srtpfallbacksrtpnegotiate** コマンドを使用すると、SIP ゲートウェイは SRTP プロファイルに回答して RTP (非セキュア) プロファイルを受け入れて送信するように設定できます。

ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipsrtpnegotiate** コマンドを使用して、Cisco IOS SIP ゲートウェイ上の個々のダイヤルピアの SRTP ネゴシエーションを有効にし、ゲートウェイ上のグローバル設定を上書きします。SRTP ネゴシエーションを有効にすると、ダイヤルピアは SRTP オフラーに応じて非セキュア RTP プロファイルを受け入れ、送信できるようになります。SIP ゲートウェイのグローバル SRTP ネゴシエーション設定を構成するには、音声サービス SIP 設定モードで **srtpnegotiate** コマンドを使用します。

voice-class sip srtp negotiate コマンドが有効になっている場合、SRTP ネゴシエーションには2つのシナリオがあります。

- **srtpfallback** コマンドが有効になっている SIP ダイアルピアでは、ダイアルピアは SRTP オファーに対する RTP 応答を受け入れます。
- **srtpfallback** コマンドが無効になっている SIP ダイアルピアでは、ダイアルピアは着信 SRTP 呼び出しを許可し、RTP 応答で応答します。

これらの動作は、セッションの確立に關与する初期 SIP メッセージのサポート対象ヘッダーの「X-cisco-srtp-fallback」拡張機能を使用して実現されます。

例

次の例は、ダイアルピアで SRTP ネゴシエーションが有効になっていて、グローバル設定が上書きされていることを示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 1
Device(config-dial-peer)# voice-class sip srtp negotiate cisco
```

関連コマンド

コマンド	description
srtp(dialpeer)	個々のダイアルピアが SRTP を使用して安全な通話を有効にすることを指定します。また、オプションで RTP へのフォールバックを有効にします (グローバル設定を上書きします)。
srtp(voice)	安全な通話を有効にするために SRTP の使用を指定し、オプションで Cisco IOS SIP ゲートウェイ上でグローバルに RTP へのフォールバックを有効にします。
srtpnegotiate	Cisco IOS SIP ゲートウェイで SRTP ネゴシエーションをグローバルに有効にします。

voice-class sip tel-config to-hdr

To: Header (to hdr) request Uniform Resource Identifier (URI) をダイヤルピア VoIP Session Initiation Protocol (SIP) 通話の telephone (TEL) 形式に構成するには、`dial peer voice` 構成モードで、**voice-classiptel-configto-hdr** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice-classiptel-configto-hdr {phone-context | system}
no voice-classiptel-configto-hdr
```

構文の説明	phone-context	ダイヤルピアベースで、phone context パラメータを TEL URL に追加します。
	system	システム値を使用します。これはデフォルトです。

コマンドデフォルト ダイヤルピア レベルの To: ヘッダー要求 URI は、グローバル構成レベルの設定を使用します。

コマンドモード Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
	12.4(24)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(24)T に統合されました。

使用上のガイドライン **voice-classiptel-configto-hdr** コマンドは、SIP 設定モードで設定された **tel-configto-hdr** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-classiptel-configto-hdr** コマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイは **tel-configto-hdr** コマンドによって設定されたグローバル設定を使用します。

例 次の例では、ダイヤル ピア VoIP SIP 通話の To: ヘッダーを TEL 形式で設定し、**phone-context** パラメータを追加します。

```
dial-peer voice 102 voip
voice-class sip tel-config to-hdr phone-context
```

関連コマンド	コマンド	description
	tel-configto-hdr	VoIP SIP 通話の To: ヘッダー要求 URI を電話形式に設定します。

音声クラス SIP テナント

ダイヤルピアを特定のテナント設定に関連付けるには、ダイヤルピア設定モードで **voice-classsip tenant** コマンドを使用します。関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsip tenant tag
no voice-classsip tenant tag

構文の説明

タグ	音声クラスの SIP テナントを識別するために使用される番号。値の範囲は 1 ~ 10000 です。
----	--

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
15.6(2)T および IOS XE Denali 16.3.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

dial-peer 構成モードで、**voice-classsip tenant <tag>** コマンドを使用して、を dial-peer **voice-classsip tenant <tag>** に関連付けます。ダイヤルピアがテナントに関連付けられている場合、設定は次の優先順位で適用されます。

1. ダイヤルピア コンフィギュレーション
2. テナント設定
3. グローバル構成

ダイヤルピアにテナントが設定されていない場合は、次の順序でデフォルトの動作を使用して設定が適用されます。

1. ダイヤルピア コンフィギュレーション
2. グローバル構成

例

次の例は、ダイヤルピア設定モードでコマンドを設定する方法を示しています。
voice-classsip tenant <tag>

```
Router(config)# dial-peer voice 10 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip tenant <tag>
Router(config-dial-peer)# end
```

voice-class sip transport switch

特定のダイヤル ピアの大きな Session Initiation Protocol (SIP) メッセージの UDP と TCP トランスポート メカニズムの切り替えを有効にするには、ダイヤル ピア設定モードで **voice-classsiptransportswitch** コマンドを使用します。特定のダイヤルピアの大きな SIP メッセージの UDP と TCP トランスポート メカニズムの切り替えを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsiptransportswitchudp tcp
no voice-classsiptransportswitchudp tcp

構文の説明

udp	SIP 要求のサイズが MTU サイズより大きいことを基準に、UDP からのトランスポート切り替えを有効にします。
tcp	TCP へのトランスポート切り替えを有効にします。

コマンド デフォルト

無効になっています。

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

voice-classsiptransportswitch コマンドはグローバル **transportswitch** コマンドよりも優先されません。

例

次の例は、**voice-classsiptransportswitch** コマンドを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 102 voip
Router(config-dial-peer)# voice-class sip transport switch udp tcp
```

関連コマンド

コマンド	description
debug ccsip transport	SIP トランスポート ハンドラーと TCP または UDP プロセスのトレースを有効にします。
transportswitch	SIP メッセージが 1300 バイトより大きい場合、トランスポートメカニズムの切り替えをグローバルに有効にします。

voice-class sip url

ダイヤルピア SIP コールの URL をセッション開始プロトコル (SIP)、SIP セキュリティ (SIPS)、または電話 (TEL) 形式に設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-class sip url** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-class sip url {sip | sips | tel[phone-context] | system}
no voice-class sip url

構文の説明

sip	ダイヤルピア ベースの通話用に SIP 形式の URL を生成します。
sips	ダイヤルピア ベースの通話用に SIPS 形式の URL を生成します。
tel	ダイヤルピア ベースの通話に対して TEL 形式の URL を生成します。
phone-context	(オプション) ダイヤルピア ベースで電話コンテキスト パラメータを TEL URL に追加します。
system	システム値を使用します。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

SIP 呼び出しはダイヤルピアレベルで、グローバル構成レベルの設定を使用します。

コマンド モード

Dial peer voice configuration (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。このリリースには、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 プラットフォームに実装されました。
12.4(6)T	sips キーワードが追加されました。
12.4(22)YB	phone-context キーワードが追加されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、発信 SIP INVITE 要求の要求行で SIP、SIPS、または TEL URL を使用するため、ユーザエージェントクライアント (UAC) にのみ影響します。SIP URL は SIP 要求の発信元、受信者、および宛先を示します。TEL URL は音声通話の接続を示します。

このコマンドは、SIP 設定モードで設定されたコマンドよりも優先されます。**voice-classsipurlurl** ただし、**voice-classsipurl** コマンドを **system** キーワードとともに使用した場合、ゲートウェイは **url** コマンドでグローバルに設定された内容を使用します。

例

次の例は、SIP 形式で URL を生成するようにコマンドを設定する方法を示しています。**voice-classsipurl**

```
dial-peer voice 102 voip
  voice-class sip url sip
```

次の例は、SIPS 形式で URL を生成するようにコマンドを設定する方法を示しています。**voice-classsipurl**

```
dial-peer voice 102 voip
  voice-class sip url sips
```

次の例は、TEL 形式の URL を生成するように **voice-classsipurl** コマンドを設定する方法を示しています。

```
dial-peer voice 102 voip
  voice-class sip url tel
```

次の例は、**voice-classsipurl** を構成して、TEL けいっひきで URL を作成する方法と、**phone-context** パラメータを追加する方法を示しています。

```
dial-peer voice 102 voip
  voice-class sip url tel phone-context
```

関連コマンド

コマンド	description
sipurl	SIP、SIPS、または TEL 形式で URL を生成します。
url	URL を SIP、SIPS、または TEL 形式に設定します。

voice-class source interface

ループバック インターフェイスを VoIP または VoIPv6 ダイアルピア プロファイルに関連付けるには、ダイアルピア設定モードで **voice-classsourceinterface** コマンドを使用します。この関連付けを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classsourceinterface ループバック インターフェイス *ID*[IPv4 アドレス *ipv6-address*]

no voice-classsourceinterface ループバック インターフェイス *ID*[IPv4 アドレス *ipv6-address*]

構文の説明	構文	説明
	loopback	ループバック インターフェイス アドレスを指定します。
	インターフェイス ID	アドレスを設定するインターフェイスを指定します。
	IPv4 アドレス	(オプション) ループバック インターフェイス アドレスで使用される IPv4 アドレス。
	<i>ipv6-address</i>	(オプション) ループバック インターフェイス アドレスで使用される IPv6 アドレス。

コマンド デフォルト VoIPv6 ダイアルピア プロファイルにはループバック インターフェイスが関連付けられていません。

コマンド モード ダイアル ピア 構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **voice-classsourceinterface** コマンドが設定されている場合、音声ゲートウェイの DSP によって生成される Routing Time Protocol (RTP) の送信元アドレスは、ループバックインターフェイスで設定されたアドレスから取得されます。このコマンドは、ゲートウェイによって発信された RTP パケットのポリシーベースルーティング (PBR) に使用されます。ポリシールートマップはループバック インターフェイスの下に設定され、その後、**voice-class source interface** コマンドを使用して VoIP または VoIPv6 ダイアルピアの下にループバック インターフェイスが指定されます。

このコマンドは、E1/T1、BRI、またはアナログポートを介して電話機器を IP ネットワークに接続するルータの音声ゲートウェイ シナリオにのみ適用されます。これは、IP 間音声シナリオ（トランスコーディングの有無にかかわらず）の Cisco Unified Border Element (CUBE) には適用されません。RTP トラフィックの PBR は CUBE では実装されていません。

例 次の例では、ループバックインターフェイスを VoIPv6 dial-peer プロファイルに関連付けます。

```
Router(config)# dial-peer voice 1 voip  
Router (config-dial-peer)# voice-class source interface loopback0
```

関連コマンド

コマンド	description
dial-peervoice	特定のダイヤルピアを定義し、音声カプセル化の方法を指定して、ダイヤルピア設定モードに入ります。

voice-class stun-usage

voice class を設定するには、stun-usage という voice class 構成モードに入り、global、dial-peer、ephone、ephone template、voice register pool または voice register pool template 構成モードで、**voice-classstun-usage** コマンドを使用します。音声クラスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classstun-usagetag
novoice-classstun-usagetag

構文の説明

タグ	1 ~ 10000 の範囲の一意の識別子。
----	-----------------------

コマンド デフォルト

音声クラスが定義されていません。

コマンド モード

Global configuration (config) Dial peer configuration (config-dial-peer) Ephone configuration (config-ephone) Ephone template configuration (config-ephone-template) Voice register pool configuration (config-register-pool) Voice register pool template configuration (config-register-pool)

コマンド履歴

リリース	シスコ製品	変更
12.4(22)T	Cisco Unified CME 7.0	このコマンドが導入されました。
15.1(2)T	Cisco Unified CME 8.1	このコマンドは変更されました。このコマンドは、ephone サマリー、ephone テンプレート、音声レジスタ プール、または音声レジスタ プール テンプレート 設定モードで有効にできます。

使用上のガイドライン

voice-class stun-usage が削除されると、ダイヤルピア、ephone、ephone テンプレート、音声レジスタ プール、または音声レジスタ プール テンプレートの設定からも自動的に削除されます。

例

次の例は、**voiceclassstun-usage** タグを 10000 に設定する方法を示しています。

```
Router(config)# voice class stun-usage 10000
Router(config-ephone)# voice class stun-usage 10000
Router(config-voice-register-pool)# voice class stun-usage 10000
```

関連コマンド

コマンド	description
stunusagefirewall-traversalflowdata	STUN を使用してファイアウォールトラバーサルを有効にします。
stunflowdataagent-id	エージェント ID を設定します。

voice-class tone-signal

以前に設定したトーン信号音声クラスを音声ポートに割り当てるには、音声ポート設定モードで **voice-classtone-signal** コマンドを使用します。トーン信号音声クラスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-classtone-signal*tag*
no**voice-classtone-signal***tag*

構文の説明

タグ	音声クラスに割り当てられた一意のラベル。タグラベルは、 voiceclasstone-signal グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して作成されたタグラベルにマッピングされます。最大 32 文字の英数字を使用できます。
----	---

コマンド デフォルト

音声ポートにはトーン信号音声クラスが割り当てられていません。

コマンド モード

Voice-port configuration

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン

voice-classtone-signal コマンドは、ear and mouth (E&M) 音声ポートのシグナルタイプが Land Mobile Radio (LMR) のポートでのみ使用できます。このコマンドのハイフネーションは、グローバル コンフィギュレーション モードで使用される同様のコマンド **voiceclasstone-signal** で使用されるハイフネーションとは異なることに注意してください。

例

次の例では、以前に設定した音声クラスを音声ポート 1/1/0 に割り当てます。

```
voice-port 1/0/0
voice-class tone-signal mytones
```

関連コマンド

コマンド	description
voiceclasstone-signal	音声クラス設定モードに入り、トーン信号音声クラスの識別タグ番号を割り当てます。

音声制御ファイル

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) クラスタの Cisco 証明書信頼リスト (CTL) ファイルを作成し、CTL ファイル設定モードに入るには、グローバル設定モードで **voice-ctl-file** コマンドを使用します。CUCM クラスタの CTL ファイルを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

voice-ctl-file *ctl*-ファイル名

no voice-ctl-file *ctl*-ファイル名

構文の説明	<i>ctl</i> -ファイル名 CTL ファイルの名前。CTL ファイル名には最大 30 文字を入力できます。 名
コマンド デフォルト	None
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード (config)
コマンド履歴	リリース 変更 ス 15.3(3)M このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **voice-ctl-file** コマンドを使用すると、CUCM クラスタの CTL ファイルのインスタンスを作成できます。CTL ファイル設定モードでは、CTL ファイルの作成に使用するトラストポイントを指定できます。

例

次の例は、「myctl」という CTL ファイルインスタンスを作成する方法を示しています。

```
Device(config)# voice-ctl-file myctl
```

音声確認音

専用回線、自動リングダウン（PLAR）、または PLAR 構外内線（OPX）接続の 2 回のビープ確認音を無効にするには、音声ポート設定モードで **voiceconfirmation-tone** コマンドを使用します。2 度のビープ音による確認トーンを有効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voiceconfirmation-tone
novoiceconfirmation-tone

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンドデフォルト

PLAR および PLAR OPX 接続では 2 回のビープ確認音が聞こえます。

コマンドモード

Voice-port configuration

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドは Cisco MC3810 で導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、PLAR および PLAR OPX 接続で発信者が受話器を取ったときに聞こえる 2 回のビープ確認音を無効にします。このコマンドは、**voice-port connection** コマンドが PLAR または PLAR OPX に設定されている場合にのみ有効です。

例

次の例では、音声ポート 1/0/0 の 2 回のビープ確認音を無効にします。

```
voice-port 1/0/0
 connection plar-opx
 voice confirmation-tone
```

関連コマンド

Command	Description
connection	Specifies a connection mode for a voice port.

voice dnis-map

デジタル番号識別サービス（DNIS）マップを作成または変更するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **voicednis-map** コマンドを使用します。DNIS マップを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicednis-map マップ名[*url*]
novoicednis-mapmap-name

構文の説明	マップ名	DNIS マップの名前。
	URL	(オプション) DNIS エントリのリストを含む外部テキストファイルの URL。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に実装されました。

使用上のガイドライン DNIS マップは、単一のダイヤルピアに関連付けられた DNIS 番号のテーブルです。VoiceXML などのアプリケーションでは、DNIS マップを使用すると、VoiceXML ドキュメントを参照するために使用されるすべての DNIS 番号に対して単一のダイヤルピアを設定できます。音声 DNIS マップを使用する場合は、次の点に留意してください。

- DNIS マップ内の DNIS エントリごとに個別のエントリを作成する必要があります。ワイルドカードはサポートされていません。
- URL が指定されていない場合、コマンドは DNIS マップ設定モードに入り、**dnis** コマンドを使用して DNIS 番号を入力できるようになります。
- URL 引数は、DNIS エントリのリストを含む外部テキストファイルの場所を指します (例: `tftp://dnismap.txt`)。これにより、管理者は、必要に応じて、各ゲートウェイで DNIS エントリを構成するのではなく、すべての DNIS マップ エントリの単一のプライマリ ファイルを維持できます。

テキスト ファイル拡張子の名前は重要ではありません。拡張子はチェックされないため、`.doc`、`.txt`、`.cfg` はすべて許容されます。ファイル内のエントリは、Cisco IOS ソフトウェア

アで設定された DNIS エントリと同じになるはずですが (例: dnis 5553305 url tftp://global/tickets/movies.vxml)。

- DNIS マップに使用される外部テキスト ファイルは TFTP サーバに保存する必要があります。HTTP サーバには保存できません。
- DNIS マップをダイヤルピアに関連付けるには、**dnis-map** コマンドを使用します。
- DNIS マップの構成情報を表示するには、**showvoicednis-map** コマンドを使用します。

例

次の例は、voice dnis-map コマンドを使用して DNIS マップを作成する方法を示しています。

```
voice dnis-map dmap1
```

次の例は、DNIS エントリを含むテキスト ファイルの場所を指定する URL と共に使用される voice dnis-map コマンドを示しています。

```
voice dnis-map dmap2 tftp://keyer/dmap2/dmap2.txt
```

以下は、DNIS マップを構成するテキスト ファイルの内容の例です。

```
!Example dnis-map with 8 entries.
!
dnis 5550112 url tftp://global/ticket/vapptest1.vxml
dnis 5550111 url tftp://global/ticket/vapptest2.vxml
dnis 5550134 url tftp://global/ticket/vapptest3.vxml
dnis 5550178
dnis 5550100
dnis 5550101
dnis 5550102
dnis 5550103
```

関連コマンド

コマンド	description
dnis	DNIS 番号を DNIS マップに追加します。
dnis-map	DNIS マップをダイヤルピアに関連付けます。
showvoicednis-map	DNIS マップに関する構成情報を表示します。
voicednis-mapload	前回のロード以降に変更された DNIS マップを再ロードします。

voice dnis-map load

変更された DNIS マップをリロードするには、特権 EXEC モードで **voicednis-mapload** コマンドを使用します。このコマンドには **no** 形式はありません。

voicednis-mapload マップ名

構文の説明	マップ名	再ロードする DNIS マップの名前。
コマンド デフォルト		デフォルトの動作や値はない
コマンド モード		特権 EXEC
コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、外部サーバにある DNIS マップを再読み込みします。前回のロード以降に DNIS マップ ファイルが変更された場合は、このコマンドを使用します。

DNIS マップを作成または変更するには、**voicednis-map** コマンドを使用します。

例 次の例では、「mapfile1」という名前の DNIS マップを再ロードします。

```
Router# voice dnis-map load mapfile1
```

関連コマンド	コマンド	description
	dnis	DNIS 番号を DNIS マップに追加します。
	dnis-map	DNIS マップをダイヤルピアに関連付けます。
	showvoicednis-map	DNIS マップに関する構成情報を表示します。
	voicednis-map	DNIS マップ コンフィギュレーション モードを開始して、DNIS マップを作成します。

voice dsp crash-dump

クラッシュダンプ機能を有効にし、宛先ファイルとファイル制限を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voicedspcrash-dump** コマンドを入力します。機能を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

voicedspcrash-dump[*destinationurl* | **file-limit**制限数]

novoicedspcrash-dump

構文の説明

destinationURL	<p>クラッシュ ダンプ分析が保存される有効なファイル システムを指定します。 <i>url</i> 引数は有効なファイル システムに設定する必要があります。</p> <p>宛先 URL は次のいずれかになります</p> <ul style="list-style-type: none"> • TFTP サーバ上のファイル。形式は <code>tftp://x.x.x.x/subfolder/filename</code> です。 <p>x.x.x.x の値は TFTP サーバの IP アドレスです</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の形式で指定される、ルータのフラッシュカード上のファイル: <code>slot0:filename</code> <p>(注) クラッシュダンプの保存先が指定されていない場合、デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のクラッシュダンプ機能は無効になります。</p>
file-limit 制限数	<p>クラッシュ ダンプ ファイル制限キーワードは、ゼロ以外の値に設定する必要があります。デフォルトでは、<i>url</i> 引数が空で、file-number 引数が 0 であるため、クラッシュ ダンプ機能はオフになっています。</p> <p>limit-number 引数の範囲は 0 (ファイルは書き込まれません) から 99 までです。</p> <p>(注) クラッシュ ダンプ ファイルの制限が 0 に設定されている場合、DSP クラッシュ ダンプ機能は無効になります。</p>

コマンド デフォルト クラッシュ ダンプ機能はオフになっています。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

クラッシュ ダンプ ファイルを書き込むようにルータを設定するには、**voicedspcrash-dump** コマンドの宛先 URL を有効なファイルシステムに設定し、クラッシュ ダンプ ファイルの制限を 0 以外の値に設定する必要があります。デフォルトでは、URL フィールドが空でファイル制限が 0 であるため、クラッシュ ダンプ 機能はオフになっています。

各クラッシュ ダンプ ファイルが作成されると、ファイル名の末尾に番号が追加されます。この番号は、後続のクラッシュ ダンプ ファイルが書き込まれるたびに、1 からファイル制限まで増加します。ルータがリロードされると、番号は 1 にリセットされ、ファイル番号 1 が再度書き込まれます。ファイル数が最大ファイル制限に達すると、それ以上のファイルは書き込まれません。

ファイル制限をゼロに設定してからゼロ以外の制限に設定することで、ファイル数を手動でリセットできます。これにより、書き込まれたファイルのカウンタが再開され、1 からファイル制限の 99 までのファイルが再度書き込まれるようになり、元のファイルが上書きされます。

ファイル番号引数をゼロ (デフォルト) に設定すると、DSP からのダンプ収集が無効になります。この場合、メモリは DSP から収集されず、スタックはコンソールに表示されません。キープアライブメカニズムがクラッシュした DSP を検出すると、DSP は単に再起動されます。

ファイル番号引数をゼロ以外の数値に設定し、宛先 URL を null にすると、ダンプが収集され、スタックがコンソールに表示されますが、ダンプ ファイルは書き込まれません。

ルータの自動回復がオフになっている場合、DSP ダンプ機能は有効にならず、キープアライブチェックは実行されず、ダンプは収集または書き込まれません。



(注) 一部の種類のフラッシュは、削除されたファイルのスペースを解放するために完全に消去する必要があり、一部の種類のフラッシュでは、フラッシュ全体が消去されるまで新しいバージョンでファイルを上書きできません。結果として、フラッシュに書き込まれるダンプ ファイルが 1 つまたは 2 つだけになるようにファイル制限を設定する必要がある場合があります。これにより、フラッシュがいっぱいになるのを防ぎます。



(注) クラッシュ ダンプ ファイルを内部フラッシュまたはブートフラッシュに書き込むことは推奨されません。これらのファイルは通常、設定情報と Cisco IOS ソフトウェア イメージを保持するために使用されるためです。Cisco では、多くのルータのスロット 0 またはスロット 1 に挿入できる予備のフラッシュ カードにクラッシュ ダンプ ファイルを書き込むことを推奨しています。これらのカードには通常、重要な情報は保存されていないため、消去される可能性があります。さらに、これらのカードはルータから簡単に取り外して Cisco に送信できるため、クラッシュ ダンプ ファイルを分析できます。

例

次の例では、クラッシュ ダンプ 機能を有効にし、スロット 0 の宛先ファイルを指定します。

```
Router configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
Router(config)# voice dsp crash-dump destination slot0:banjo-152-s
Router# end
1w0d:%SYS-5-CONFIG_I:Configured from console by console
```

特権 EXEC 設定モードで `show voice dsp crash-dump` コマンドを入力して設定を確認します。

```
Router# show voice dsp crash-dump
Voice DSP Crash-dump status:
  Destination file url is slot0:banjo-152-s
File limit is 20
  Last DSP dump file written was
    tftp://112.29.248.12/tester/26-152-t2
  Next DSP dump file written will be slot0:banjo-152-s1
```

関連コマンド

コマンド	description
<code>debugvoicedspcrash-dump</code>	クラッシュ ダンプのデバッグ情報を表示します。
<code>showvoicedspcrash-dump</code>	音声 DSP クラッシュ ダンプ情報を表示します。

音声 DSP 無効メッセージドロップ

無効なデジタル信号プロセッサ (DSP) メッセージをドロップするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voice dsp invalid-msg drop** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

voicedspinvalid-msgdrop
novoicedspinvalid-msgdrop

コマンド デフォルト 無効な DSP メッセージはドロップされません。

コマンド モード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 音声 DSP 制御メッセージロガー機能を使用すると、ログに記録された制御メッセージをデバッグして、音声関連の問題を調べることができます。無効なメッセージを削除するには、**voice dsp invalid-msg drop** コマンドを使用します。

例

次の例では、無効な DSP メッセージを削除します。

```
Router# voice dsp invalid-msg drop
```

音声エコーキャンセラー拡張

Cisco 1700 シリーズ、Cisco ICS7750、または Cisco AS5300 で拡張 G.168 エコーキャンセラ (EC) を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voiceecho-cancellerextended** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco 1700 シリーズおよび Cisco ICS 7750

voiceecho-cancellerextended
novoiceecho-cancellerextended

Cisco AS5300

voiceecho-cancellerextended[codecsmallcodeclargecodec]
novoiceecho-cancellerextended

構文の説明

codec	(オプション) 大証両方の制限されたコーデックを定義します。
small コーデック	フットプリントの小さいコーデック。 <i>codec</i> 引数の有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • g711 • g726
large コーデック	フットプリントの大きいコーデック。 <i>codec</i> 引数の有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • fax-relay • g723 • g728 • g729 • gsmefr • gsmfr

コマンド デフォルト

独自の Cisco G.165 EC が有効になっています。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(13)T	このコマンドが導入されました。

リリース	変更
12.3(3)	このコマンドは、Cisco AS5300 で無制限のコーデックを許可するように変更されました。 codec キーワードはオプションになりました。

使用上のガイドライン Cisco 1700 シリーズおよび Cisco ICS7750

エコー キャンセラを切り替えるために、Cisco 1700 シリーズまたは Cisco ICS7750 のすべての音声ポートをシャットダウンする必要はありませんが、エコー キャンセラを切り替えるときに、ルータ上にアクティブな通話がないことを確認する必要があります。

エコーキャンセルは音声品質を最小限に低下させる可能性のある侵入的なプロセスであるため、必要がない場合はこのコマンドを無効にする必要があります。

Cisco AS5300

このコマンドは、C542 または C549 デジタル信号プロセッサ モジュール (DSPM) 高複雑度ファームウェアを搭載した Cisco AS5300 でのみ使用できます。

voiceecho-cancellerextended コマンドは、C549 DSP ファームウェアを使用し、DSP と制限されたコーデック別 1 つの音声チャンネルがある Cisco AS5300 の拡張済み EC を有効にします。あらゆるコーデックがサポートされています。

voiceecho-cancellerextendedcodec コマンドは、C542 または C549 DSP ファームウェアを使用し、DSP と制限されたコーデック別の 2 つの音声チャンネルがある Cisco AS5300 の拡張済み EC を有効にします。拡張 EC では特定のコーデックのみ使用できます。

fax-relay を大きなコーデックとして選択しない場合、VoIP ダイアルピアでは、**dial-peer** 構成モードで、**fax rate disabled** コマンドを使用する必要があります。

拡張済みエコーキャンセラがサポートするコーデックを選択したら、新しい構成でサポートされていない異なるコーデックがあるすべてのダイアルピアを削除するか、音声コーデックまたは **fax-relay** を選択して **dial-peer** コーデックを修正します。コーデックが制限されている場合、選択できるのは 1 つだけです。接続時の音声品質を確保するには、拡張済み EC 互換コーデックを使用して VoIP ダイアルピアを設定する必要があります。

アクティブな通話がある場合、このコマンドは受け入れられません。EC がすでに有効になっていてコーデックの選択が変更された場合、システムはダイアルピアをスキャンします。新しいグローバルコマンド設定に準拠していないダイアルピアはすべて変更され、その変更がユーザに通知されます。同様に、モデム リレーは拡張 EC と互換性がないため、すべてのダイアルピアに対してグローバルに無効にする必要があります。



(注) このコマンドは、**echo-cancelenable** コマンドと **echo-cancel coverage** コマンドが有効になっている場合にのみ有効です。

例

次の例では、Cisco 1700 シリーズまたは Cisco ICS7750 で拡張 G.168 EC を設定します。

```
Router(config)# voice echo-canceller extended
```

次の例では、制限されたコーデックを使用して Cisco AS5300 に拡張 G.168 EC を設定します。

```
Router(config)# voice echo-canceller extended codec small g711 large g726
```

次の例は、制限されたコーデックが許可されていない場合に表示されるエラーメッセージを示しています。

```
Cannot configure now, dial-peer 8800 is configured with codec=g728, fax rate=disable, modem=passthrough system.If necessary set this command to 'no', re-configure dial-peer codec, fax rate and/or modem. Then re-enter this command.
```

上記の例では、ダイヤルピア 8800 が、**voiceecho-cancellerextended** コマンドを使用して大規模なコーデック タイプに選択されなかったコーデック タイプ g728 で誤って設定されています。

関連コマンド

Command	Description
echo-cancelcoverage	インターフェイスから送信され、同じインターフェイスで受信される音声のキャンセルを有効にします。
echo-cancel enable	同じインターフェースで送受信される音声のキャンセルを有効にします。

voice enum-match-table

音声通話用の ENUM 一致テーブルを作成するには、global 構成モードで、**voiceenum-match-table** を使用します。ENUM 一致テーブルを削除するには、このコマンドの **no**形式を使用します。

voiceenum-match-table *table-number*
novoiceenum-match-table *table-number*

構文の説明	テーブル番号	ENUM 一致テーブルの番号。範囲は 1～15 です。デフォルト値はありません。
-------	--------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ENUM マッチ テーブルは、着信コールを一致させるための一連のルールです。電話がかかってくると、その着信番号は、最も優先度の高いルールの一致パターンと照合されます。

一致する場合、置換パターンが番号に適用されます。結果の番号とルールのドメイン名は、ENUM クエリの作成に使用されます。

着信番号が一致パターンと一致しない場合は、優先順位の次のルールが選択されます。

例 次の例では、音声通話用の ENUM マッチ テーブル 3 を作成します。

```
Router(config)# voice enum-match-table 3
Router(config-enum)# rule 1 5/(.*)/ /\1/e164.cisco.com
Router(config-enum)# rule 2 4/^9011\(.*)/ /\1/e164.arpa
```

この表では、ルール 1 は任意の番号に一致します。結果の番号は発信番号と同じです。その番号とドメイン名「e164.cisco.com」は、ENUM クエリを作成するために使用されます。

ルール 2 は、9011 で始まるすべての番号に一致します。着信番号から 9011 が削除されます。結果の番号とドメイン名「e164.arpa」は、ENUM クエリに使用されます。

着信通話の発信番号が 4085550112 であるとします。[ルール 2 が適用される]のは、優先度が高いためです。最初の桁の 4085 はルール 2 の 9011 パターンと一致しないため、次に [ルール 1 が適用されます]。発信番号が、ルール 1 と一致し、結果の番号が 4085550112 です。この番号と「e164.cisco.com」が組み合わさって、ENUM クエリ (2.1.2.1.5.5.8.0.4.e164.cisco.com) を形成します。

関連コマンド

コマンド	description
rule(ENUMconfiguration)	ENUM 一致テーブルの一致、置換、および拒否パターンを定義します。
showvoiceenum-match-table	音声 ENUM 一致テーブルの構成を表示します。
testenum	ENUM 一致テーブルの機能をテストします。

voice hpi capture

ホスト ポート インターフェイス (HPI) キャプチャ バッファ サイズ (バイト単位) を割り当て、キャプチャしたデータの宛先 URL を設定または変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voicehpicapture** コマンドを使用します。すべてのログ記録とファイル操作を停止し、キャプチャ バッファからのデータ転送を無効にし、バッファ サイズを自動的に 328 に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicehpicapture[bufferサイズ | destinationurl]
novoicehpicapturebufferサイズ

構文の説明

buffer サイズ	(オプション) HPI キャプチャ バッファのサイズ (バイト単位)。範囲は 328 ~ 9000000 です。デフォルト値は 328 です。
destinationURL	(オプション) キャプチャしたデータを保存するための宛先 URL。

コマンド デフォルト

328 バイト (明示的に設定されていない場合はバッファは使用されません)

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(10)	このコマンドが導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

既存のゼロ以外のバッファのサイズを変更する場合は、まず 0 にリセットし、次に 0 から新しいサイズに変更する必要があります。

destinationurl オプションは、キャプチャされたデータの送信先 URL を設定または変更します。キャプチャバッファからのデータ転送を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。バッファが割り当てられている場合、新しい URL が指定されるまで、キャプチャされたデータは現在の URL (すでに構成されている場合) に送信されます。

新しい URL が現在の URL と異なり、ログ記録が有効になっている場合、現在の URL は閉じられ、それ以降のすべてのデータは新しい URL に送信されます。空の URL を入力するか、コマンドの前に **no** を付けると、キャプチャバッファからのデータ転送が無効になり、(キャプチャが有効になっている場合) キャプチャされたデータは、容量に達するまでキャプチャ バッファに保存されます。

バッファ キュー プログラムが実行されると、トランスポート プロセスは、新しいまたは既存の「キャプチャ先」URL への接続を試みます。バージョンメッセージが URL に書き込まれ、メッセージが正常に受信されると、メッセージ キューに配置された後続のメッセージもその URL に書き込まれます。Voice hpi capture destination url コマンドを使用して新しい URL を入

力すると、開いている URL が閉じられ、システムは新しい URL への書き込みを試行します。新しい URL が機能しない場合は、トランスポートプロセスが終了します。別の URL を入力するか、システムを再起動すると、トランスポートプロセスが再起動されます。

バッファ サイズ オプションは、キャプチャシステムがアクティブなときにバッファに割り当てるメモリの最大量 (バイト単位) を設定します。キャプチャバッファは、キャプチャされたメッセージがキャプチャ先で指定された URL に送信される前に保存される場所です。システムは、バッファ キューイング システムが空きメッセージプールに割り当てることができるメモリ量 (0 バイトより大きい) を選択することによって起動されます。バッファ容量に達するまで HPI メッセージをキャプチャできます。バッファ サイズに **0** を入力し、コマンドの前に **no** を付けると、すべてのログ記録とファイル操作が停止し、バッファサイズが自動的に 0 に設定されます。

voicehpicapture コマンドはルータの設定とともに保存できるため、ルータの起動時にコマンドがアクティブになります。これにより、CLI が有効になる前にルータの起動中に送信された HPI メッセージをキャプチャできます。実行コンフィギュレーションでバッファ サイズを設定したら (有効な範囲は 328 ~ 9000000)、**write** コマンドを使用してスタートアップ コンフィギュレーションに保存するか、**copyrunftp** コマンドを使用して TFTP サーバに保存します。



注意 実稼働ネットワーク環境でメッセージ ロガー機能を使用すると、ゲートウェイの CPU とメモリの使用率に影響します。

例

次の例では、HPI キャプチャバッファのサイズ (バイト単位) を変更し、バッファキュー プログラムを初期化します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# voice hpi capture buffer 40000
Router(config)# end
Router#
03:23:31:caplog:caplog_cli_interface:hpi capture buffer size set to 40000 bytes
03:23:31:caplog:caplog_logger_init:TRUE, Started task HPI Logger (PID 64)
03:23:31:caplog:caplog_cache_init:TRUE, malloc_named(39852), 123 elements (each 324 bytes big)
03:23:31:caplog:caplog_logger_proc:Attempting to open ftp://172.23.184.233/c:b-38-117
03:23:32:%SYS-5-CONFIG_I:Configured from console by console
Router#
```

次の例では、FTP を使用して宛先 URL を指定してキャプチャ先を設定します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# voice hpi capture destination ftp://172.23.184.233/c:b-38-117a
Router(config)#
04:05:10:caplog:caplog_cli_interface:hpi capture
destination:ftp://172.23.184.233/c:b-38-117a
04:05:10:caplog:caplog_logger_init:TRUE, Started task HPI Logger (PID 19)
04:05:10:caplog:caplog_cache_init:Cache must be at least 324 bytes
04:05:10:caplog:caplog_logger_proc:Terminating...
Router(config)# end
Router#
```

関連コマンド

コマンド	description
debug hpi	ロガーのデバッグ出力をオンにします。
show voice hpi capture	キャプチャのステータスと統計を表示します。

voice hunt

発信ルータまたはタンデムルータを設定して、宛先ルータから指定された切断原因コードを受信した場合でも、**dial-peer hunting** を継続するには、**global** 構成モードで、**voicehunt** コマンドを使用します。指定された切断原因コード（デフォルト条件）を受信した場合、ダイヤルピアハンティングを停止するようにルータを設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。デフォルトのダイヤルピア ハント設定を復元するには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

voicehunt {切断原因コード | **all**}

novoicehunt {切断原因コード | **all**}

defaultvoicehunt

構文の説明	切断原因コード	説明
		エンドツーエンドの通話が失敗した理由を示すために宛先ルータから返されるコード。指定された切断原因コードが最後の宛先エンドポイントから返された場合、ダイヤルピアハンティングが有効または無効になります。以下の「使用ガイドライン」セクションの表では、可能な値について説明します。キーワード、10進数値、または16進数値を入力できます。
	all	宛先エンドポイントから返されたすべての切断原因コードに対して dial-peer hunting を継続します。
	default	デフォルトの dial-peer hunt 設定を復元します。つまり、ルータは、 user-busy または no-answer disconnect の原因コードを受信すると dial-peer hunting を停止します。

コマンド デフォルト ルータは、**user-busy** または **no-answer disconnect** の原因コードを受信すると **dial-peer hunting** を停止します。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(5)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 の VoFR 用に導入されました。Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの VoIP にも導入されました。
	12.0(7)T	このコマンドは、Cisco AS5300 および Cisco AS5800 上の VoIP 用に実装されました。
	12.0(7)XK	このコマンドは、Cisco MC3810 上の VoIP 用に実装されました。
	12.1(2)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合され、Cisco MC3810 の VoIP 用に実装されました。

リリース	変更
12.1(3)XI	invalid-number および unassigned-number キーワードが追加され、コマンド名が voicehunt に変更されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	より多くの切断原因コードにキーワードが追加されました。
12.3(8)T	<i>disconnect-cause-code</i> 引数は、非標準の切断原因コードを受け入れるように変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、VoIP、VoFR、または Voice over ATM 環境で発信ノードまたはタンデム ノードとして機能するルータで使用されます。

ロータリーダイヤルピアハンティング用に設定された発信 VoIP ゲートウェイからの発信コールの場合、複数のダイヤルピアが同じ宛先番号と一致することがあります。一致するダイヤルピアには異なるルートがある場合があります。最初のダイヤルピアを使用した音声通話が切断されると、切断原因コードが返されます。ルータが、ロータリーグループ内の次に一致するダイヤルピアを取得して通話をセットアップするには、各種ルートのハンティングを継続するようにルータを設定する必要があります。このコマンドを使用して、指定された原因コードを受信したときのルータのハンティング動作を設定します。

このコマンドを使用すると、非標準の切断原因コードを受信したときにダイヤルピアハンティングを有効または無効にすることができます。非標準の切断原因コードは、ITU-T 勧告 Q.931 では定義されていないが、サービスプロバイダーによって使用されるコードです。このコマンドを使用して特定の切断原因コードのダイヤルピアハンティングを無効にすると、そのコマンドはルータの実行コンフィギュレーションに表示されます。

切断原因コードについては、以下の表で説明します。切断原因コードの 10 進値と 16 進値は、各可能なキーワードの説明の後に続きます。



- (注) **voice hunt** の構成中は、**sip-ua** 構成モードで、**reason header override** を構成し、別のログに正しい原因コードが送信されるようにします。**reason header override** の詳細については、「[reason-header override](#) コマンド」を参照してください。

表 3: 標準的な切断原因コード

キーワード	description	Decimal	ヘックス
access-info-discard	アクセス情報は破棄されました。	43	0x2b
all	宛先ルータから受信したすべての切断原因コードに対して、ダイヤルピアハントを続行します。		

キーワード	description	Decimal	ヘックス
b-cap-not-implemented	ベアラ機能が実装されていません。	65	0x41
b-cap-restrict	制限されたデジタル情報のベアラ機能のみ。	70	0x46
b-cap-unauthorized	ベアラ機能は承認されていません。	57	0x39
b-cap-unavail	ベアラ機能は利用できません。	58	0x3a
call-awarded	Call awarded.	7	0x7
call-cid-in-use	通話が存在します。通話 ID は使用中です。	83	0x53
call-clear	通話が終了しました。	86	0x56
call-reject	通話は拒否されました。	21	0x15
cell-rate-unavail	セルレートは利用できません。	37	0x25
channel-unacceptable	チャンネルは受け入れられません。	6	0x6
chantype-not-implement	チャンネルタイプが実装されていません。	66	0x42
cid-in-use	通話 ID は使用中です。	84	0x54
codec-incompatible	コーデックに互換性がありません。	171	0xab
cug-incalls-bar	Closed user group (CUG) 着信通話が禁止されています。	55	0x37
cug-outcalls-bar	CUG 発信は禁止されています。	53	0x35
dest-incompatible	宛先が互換性がありません。	88	0x58
dest-out-of-order	宛先が故障しています。	27	0x1b
dest-unroutable	目的地までのルートがありません。	3	0x3
dsp-error	デジタル信号プロセッサ (DSP) エラー。	172	0xac
dtl-trans-not-node-id	Designated transit list (DTL) トランジットが使用しているノード ID ではありません。	160	0xa0
facility-not-implemented	機器が実装されていません。	69	0x45
facility-not-subscribed	機器がサブスクライブされていません。	50	0x32
facility-reject	機器が拒否されました。	29	0x1d
glare	発着信の衝突。	15	0xf

キーワード	description	Decimal	ヘックス
glaring-switch-pri	スイッチ PRI をグレアします。	180	0xb4
htspm-oos	Holst テレフォニー サービス プロバイダー モジュール (HTSPM) がサービス停止中です。	129	0x81
ie-missing	必須の情報要素がありません。	96	0x60
ie-not-implemented	情報要素が実装されていません。	99	0x63
info-class-inconsistent	情報とクラスの不一致。	62	0x3e
interworking	相互接続。	127	0x7f
invalid-call-ref	呼び出し参照値が無効です。	81	0x51
invalid-ie	情報要素の内容が無効です。	100	0x64
invalid-msg	無効なメッセージです。	95	0x5f
invalid-number	無効な番号です。	28	0x1c
invalid-transit-net	無効なトランジットネットワークです。	91	0x5b
misdialed-trunk-prefix	トランクプレフィックスのかけ間違い。	5	0x5
msg-incomp-call-state	不完全な通話状態のメッセージ。	101	0x65
msg-not-implemented	メッセージタイプが実装されていません。	97	0x61
msgtype-incompatible	メッセージタイプに互換性がありません。	98	0x62
net-out-of-order	ネットワークが故障しています。	38	0x26
next-node-unreachable	次のノードに到達できません。	128	0x80
no-answer	ユーザーからの応答がありません。	19	0x13
no-call-suspend	通話は中断されません。	85	0x55
no-channel	チャンネルが存在しません。	82	0x52
no-circuit	回線がありません。	34	0x22
no-cug	CUG が存在しません。	90	0x5a
no-dsp-channel	DSP チャンネルがありません。	170	0xaa
no-req-circuit	要求された回路はありません。	44	0x2c

キーワード	description	Decimal	ヘックス
no-resource	リソースがありません。	47	0x2f
no-response	ユーザの応答はありません。	18	0x12
no-voice-resources	利用できる音声リソースがありません。	126	0x7e
non-select-user-clear	選択されていないユーザーをクリア中。	26	0x1a
normal-call-clear	通常通話をクリア中。	16	0x10
normal-unspecified	正常、未指定。	31	0x1f
not-in-cug	ユーザは CUG に参加していません。	87	0x57
number-changed	番号が変更されました。	22	0x16
param-not-implemented	実装されていないパラメータが渡されました。	103	0x67
perm-frame-mode-oos	永続フレーム モードが使用不可です。	39	0x27
perm-frame-mode-oper	永続フレーム モードが動作中です。	40	0x28
precedence-call-block	優先コールがブロックされました。	46	0x2e
preempt	先取権。	8	0x8
preempt-reserved	プリエンプトが予約済みです。	9	0x9
protocol-error	プロトコルエラー。	111	0x6f
qos-unavail	QoS は利用できません。	49	0x31
rec-timer-exp	タイマー満了時に回復します。	102	0x66
redirect-to-new-destination	新しい宛先にリダイレクトします。	23	0x17
req-vpci-vci-unavail	要求された VPCI VCI は利用できません。	35	0x23
send-infotone	情報音を送信します。	4	0x4
serv-not-implemented	サービスは実装されていません。	79	0x4f
serv/opt-unavail-unspecified	サービスまたはオプションのが利用不可、未指定。	63	0x3f
stat-enquiry-resp	ステータス照会に対する応答。	30	0x1e
subscriber-absent	加入者が不在です。	20	0x14

キーワード	description	Decimal	ヘックス
switch-congestion	スイッチの混雑。	42	0x2a
temp-fail	一時的なエラー。	41	0x29
transit-net-unroutable	トランジットネットワークへのルートがありません。	2	0x2
unassigned-number	割り当てられていない番号です。	1	0x1
unknown-param-msg-discard	認識されないパラメータメッセージは破棄されました。	110	0x6e
unsupported-aal-parms	ATM アダプテーション層 (AAL) パラメータはサポートされていません。	93	0x5d
user-busy	ユーザはビジーです。	17	0x11
vpci-vci-assign-fail	仮想パス接続識別子仮想チャンネル識別子 (VPCI VCI) の割り当てに失敗しました。	36	0x24
vpci-vci-unavail	利用できる VPCI VCI がありません。	45	0x2d

例

次の例では、発信元ルータまたはタンデムルータが宛先ルータからユーザビジー切断原因コードを受信した場合にダイヤルピアハンティングを続行するように設定しています。

```
voice hunt user-busy
```

次の例では、発信元ルータまたはタンデムルータが宛先ルータから無効な番号の切断原因コードを受信した場合にダイヤルピアハンティングを続行するように設定しています。

```
voice hunt 28
```

次の例では、宛先ルータから指定された facility-not-subscribed 切断原因コードを受信した場合でも、dial-peer hunting を継続するように発信ルータまたはタンデムルータを構成します。

```
voice hunt 0x32
```

関連コマンド

コマンド	description
huntstop	ハントグループの使用時に通話が失敗した場合、それ以降のすべてのダイヤルピアハンティングを無効にします。

コマンド	description
preference	ロータリー ハント グループ内のダイヤル ピアの優先順序を示します。

voice iec syslog

内部エラーコードが発生したときにそれをリアルタイムで表示するには、グローバルコンフィギュレーションモードで `voice iec syslog` コマンドを使用します。IEC syslog メッセージを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voiceiecsyslog
novoiceiecsyslog

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

IEC syslog メッセージは無効になっています。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1	YANG モデルのサポートを導入しました。

例

次の例では、IEC syslog メッセージを有効にします。

```
Router(config)# voice iec syslog
```

関連コマンド

コマンド	description
clearvoicestatistics	Clears voice statistics, resetting the statistics collection.
showvoicestatisticsiec	iec 統計を表示します
showvoicestatisticsinterval-tag	IEC 統計に使用可能な間隔オプションを表示します
voicestatisticstypeiec	IEC 統計の収集を可能にする

音声ローカルバイパス

デジタル信号プロセッサ (DSP) をバイパスするようにローカル コールを設定するには、**voicelocal-bypasscommand**in グローバル コンフィギュレーション モードを使用します。 DSP 経由でローカル通話を送信するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicelocal-bypass
no voicelocal-bypass

構文の説明 このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト ローカル通話は DSP をバイパスします。

コマンド モード グローバル構成

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 に実装されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン ローカル コール (ルータまたはコンセントレータの音声ポート間のコール) は通常、システム リソースの使用を最小限に抑えるために DSP をバイパスします。 DSP 経由でローカル コールを送信する必要がある場合は、**no** コマンドの **voicelocal-bypass**形式を使用します。入力ゲインと出力減衰は、通話が DSP 経由で送信される場合にのみ設定できます。

例 次の例では、Cisco ルータが DSP を介してローカル コールを渡すように設定しています。

```
no voice local-bypass
```

コマンド	description
inputgain	特定の入力ゲイン値を設定します。
outputattenuation	特定の出力減衰値を設定します。

音声 mlpp

MLPP 構成モードに入り、MLPP サービスを有効にするには、**global** 構成モードで、**voice service** コマンドを使用します。MLPP サービスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemlpp
novoicemlpp

構文の説明

このコマンドにはキーワードも引数也没有ありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

Global configuration (config)

コマンド履歴

Cisco IOS リリース	Cisco 製品	変更
12.4(22)YB	Cisco Unified CME 7.1	このコマンドが導入されました。
12.4(24)T	Cisco Unified CME 7.1	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(24)T に統合されました。

Voice-mlpp 設定モードはゲートウェイ全体で使用されます。

例

次の例は、voice-mlpp 設定モードに入る方法を示しています。

```
Router(config)# voice mlpp
Router(config-voice-mlpp)# access-digit
```

関連コマンド

コマンド	description
access-digit	電話ユーザが優先通話を要求するためにダイヤルするアクセス番号を定義します。
mlpppreemption	SCCP 電話またはアナログ FXS ポート上の通話をプリエンプトできるようにします。
preemptiontrunkgroup	トランク グループでプリエンプション機能を有効にします。

ボイスメール (stcapp-fsd)

SCCP テレフォニー コントロール (STC) アプリケーション機能のスピードダイヤルコードを指定してボイスメール番号をスピードダイヤルするには、STC アプリケーション機能のスピードダイヤル設定モードで **voicemail** コマンドを使用します。コードをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail キーパッド文字
no voicemail

構文の説明

<i>keypad-character</i>	電話のキーパッドでダイヤルできる 1 桁または 2 桁の数字。範囲は、1 桁のコードの場合は 0 ~ 9、2 桁のコードの場合は 00 ~ 99 です。デフォルト値は、1 桁のコードの場合は 0 (ゼロ)、2 桁のコードの場合は 00 (ゼロ 2 つ) です。 (注) 桁数は、 digit コマンドで設定された値によって異なります。
-------------------------	--

コマンド デフォルト

デフォルトのボイスメール コードは、1 桁のコードの場合は 0 (ゼロ)、2 桁のコードの場合は 00 (ゼロ 2 つ) です。

コマンド モード

STC アプリケーション機能のスピードダイヤル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。
12.4(6)T	キーパッド文字引数は 2 桁のコードを許可するように変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは STC アプリケーションで使用されます。STC アプリケーションでは、コール制御に Skinny Client Control Protocol (SCCP) を使用するアナログ FXS エンドポイントで特定の機能を有効にします。

電話機でボイスメールへのスピードダイヤル機能を使用するには、機能スピードダイヤル (FSD) プレフィックスと、このコマンドで設定されたコード (このコマンドが使用されなかった場合はデフォルト) をダイヤルします。たとえば、FSD プレフィックスが * (デフォルト) で、ボイスメール電話番号をダイヤルする場合は、*0 をダイヤルします。

ボイスメールのスピードダイヤルする番号は、Cisco CallManager または Cisco CallManager Express システムで設定する必要があることに注意してください。

digit コマンドの値を変更すると、このコマンドはデフォルト値にリセットされます。たとえば、**digit** コマンドを 2 に設定し、その後、**digit** コマンドをデフォルトの 1 に戻すと、ボイスメール FSD コードは 0 (ゼロ) にリセットされます。

このコードを、すでに別の FSD コードで使用されている値に設定すると、警告メッセージが表示されます。重複するコードを設定すると、システムは、**showstcappfeaturecodes** コマンドの出力に表示される優先順位に従って、最初に一致する機能を実装します。

showrunning-config コマンドは、デフォルト以外の FSD コードのみを表示します。

showstcappfeaturecodes コマンドはすべての FSD コードを表示します。

例

次の例では、FSD プレフィックスとして 2 つのポンド記号 (##) を設定し、ボイスメールコードとして 8 を設定します。これらの値を設定すると、電話機のユーザは ##8 を押してボイスメール番号をダイヤルします。

```
Router(config)# stcapp feature speed-dial
Router(stcapp-fsd) # prefix ##
Router(stcapp-fsd) # voicemail 8
Router(stcapp-fsd) # exit
```

関連コマンド

コマンド	description
digit	STC アプリケーション機能のスピードダイヤルコードの桁数を指定します。
prefix(stcapp-fsd)	STC アプリケーション機能のスピードダイヤルコードをダイヤルする前にプレフィックスを指定します。
redial	最後にダイヤルした番号を再度ダイヤルするための STC アプリケーション機能のスピードダイヤルコードを指定します。
showrunning-config	現在のデフォルト以外の構成設定を表示します。
showstcappfeaturecodes	設定された STC アプリケーション機能コードとデフォルトの STC アプリケーション機能コードを表示します。
speeddial	STC アプリケーション機能のスピードダイヤルコードの範囲を指定します。
stcappfeaturespeed-dial	STC アプリケーション機能スピードダイヤル設定モードに入り、機能スピードダイヤルコードを設定します。

音声 PCM キャプチャ

パルス コード変調 (PCM) キャプチャ バッファの数を割り当てたり、キャプチャしたデータの宛先 URL を設定または変更したり、オンデマンドで PCM キャプチャを有効にしたり、ユーザによる PCM キャプチャトリガー文字列を変更したりするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voice pcm capture** コマンドを使用します。すべてのログ記録とファイル操作を停止し、キャプチャバッファからのデータ転送を無効にし、バッファの数を自動的に 0 に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice pcm capture {*buffer number* | *destination url* | *on-demand-trigger* | *user-trigger-string* 開始文字列 *stop-string* *stream* ビットマップ *duration* 通話時間}

no voice pcm capture {*buffer number* | *destination url* | *on-demand-trigger* | *user-trigger-string*}

構文の説明

buffer 番号	PCM キャプチャ バッファの数を割り当てます。範囲は 0 ~ 200000 です。デフォルト値は 0 です。
destination URL	キャプチャしたデータを保存するための宛先 URL を指定します。
on-demand-trigger	(オプション) PCM capture user trigger on-demand を構成します。
user-trigger-string 開始文字列 終了文字列 stream ビットマップ duration 通話時間	(オプション) PCM user trigger string を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>start-string</i>—最大 15 文字の開始文字列。 • <i>stop-string</i>—最大 15 文字の停止文字列。 • <i>stream</i>—PCM キャプチャストリーム ビットマップを構成します。 • <i>bitmap</i>—16 進数の PCM ストリーム ビットマップ。範囲は 1 ~ FFFFFFFF です。デフォルト値は 7 です。 • <i>duration</i>—PCM キャプチャの継続時間を設定します。 • <i>call-duration</i>—通話時間。範囲は 0 ~ 255 です。デフォルト値は 0 です。

コマンド デフォルト

デフォルト値は次のとおりです。

- バッファ数: 0
- 開始文字列: 123
- 停止文字列: 456
- ストリーム: 7
- 通話時間: 0

コマンドモード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

既存の非ゼロバッファの番号を変更する場合は、まず0にリセットしてから、0から新しい番号に変更する必要があります。

destinationurl オプションは、キャプチャされたデータの送信先URLを設定または変更します。キャプチャバッファからのデータ転送を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。バッファが割り当てられている場合、新しいURLが指定されるまで、キャプチャされたデータは現在のURL(すでに構成されている場合)に送信されます。

新しいURLが現在のURLと異なり、ログ記録が有効になっている場合、現在のURLは閉じられ、それ以降のすべてのデータは新しいURLに送信されます。空のURLを入力するか、コマンドの前に **no** を付けると、キャプチャバッファからのデータ転送が無効になり、(キャプチャが有効になっている場合)キャプチャされたデータは、容量に達するまでキャプチャバッファに保存されます。

バッファキュープログラムが実行されると、トランスポートプロセスは、新しいまたは既存の「キャプチャ先」URLへの接続を試みます。バージョンメッセージがURLに書き込まれ、メッセージが正常に受信されると、メッセージキューに配置された後続のメッセージもそのURLに書き込まれます。**voice pcm capture destination url** コマンドを使用して新しいURLを入力すると、開いているURLが閉じられ、システムは新しいURLへの書き込みを試みます。新しいURLが機能しない場合は、トランスポートプロセスが終了します。別のURLを入力するか、システムを再起動すると、トランスポートプロセスが再開されます。

例

次の例は、PCM キャプチャバッファの数を設定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# voice pcm capture buffer 200
```

次の例は、キャプチャしたデータを保存するための宛先URLを構成する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# voice pcm capture destination tftp://10.0.1.10/acphan/
```

次の例は、ユーザトリガーPCMキャプチャを構成する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# voice pcm capture on-demand-trigger
```

次の例は、デフォルトのユーザ トリガー PCM キャプチャの開始および停止文字列、ストリーム、および通話期間を変更する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# voice pcm capture #132 #543 stream ff duration 230
```

関連コマンド

コマンド	description
showvoicepcm capture	PCM キャプチャのステータスと統計を表示します。

音声電話プロキシ

音声電話プロキシインスタンスを作成し、電話プロキシコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voice-phone-proxy** コマンドを使用します。音声電話プロキシインスタンスを削除するには、**no** コマンドの形式を使用します。

voice-phone-proxy*pp-name*
no**voice-phone-proxy***pp-name*

構文の説明	<i>pp-name</i> 電話プロキシインスタンス名。
コマンドデフォルト	なし
コマンドモード	グローバルコンフィギュレーションモード (config)
コマンド履歴	リリー 変更 ス 15.3(3)M このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **voice-phone-proxy** コマンドを使用すると、音声電話プロキシのインスタンスを作成できます。電話プロキシ設定モードでは、電話プロキシインスタンスのサービスやサーバ設定などの設定を指定できます。

例

次の例は、**first-pp** という電話プロキシインスタンスを作成し、電話プロキシ設定モードに入り、このインスタンスの説明を設定し、このクラスタの証明書信頼リスト (CTL) ファイルを指定する方法を示しています。

```
Device(config)# voice-phone-proxy first-pp
Device(config-phone-proxy)# description cluster-test
Device(config-phone-proxy)# ctl-file my-cluster-test-ctl-file
```

音声電話プロキシファイルバッファ

電話プロキシバッファ ファイルを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voice-phone-proxyfile-buffer** コマンドを使用します。

voice-phone-proxyfile-buffersize サイズ **aging** 時刻

構文の説明	size サイズ	バッファ サイズ (MB)。 値の範囲は 10 ~ 60 です。
	aging	電話プロキシバッファ ファイルの経過時間をチェックします。
	時間	時間 (秒) 。 範囲は 10 ~ 3600 です。 設定された時間に基づいて、ファイルバッファが定期的にチェックされます。

コマンドデフォルト デフォルトの電話プロキシが存在しません。

コマンドモード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 電話プロキシバッファ ファイルに割り当てることができる最大バッファ サイズは 60 MB です。 バッファ サイズがしきい値を超えると、新しい電話プロキシバッファ ファイルを作成できません。 古いバッファ ファイルを削除するには、コマンド **voice-phone-proxy file-buffer size aging time** を使用します。 設定された時間に基づいて、バッファは定期的にチェックされ、バッファ サイズが最大制限を超えると、古い電話プロキシバッファ ファイルが削除されます。

例

次の例では、ファイルバッファ サイズを 30 MB に設定し、100 秒間隔でファイルバッファをチェックします。

```
Router (config)# voice-phone-proxy file-buffer size 30 aging 100
```

voice-phone-proxy tftp-address

TFTP サーバの IP アドレスと VRF 名を指定し、電話プロキシコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voice-phone-proxy tftp-address** コマンドを使用します。TFTP サーバの IP アドレスと VRF 名を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

voice-phone-proxy tftp-address {**ipv4** IPv4 アドレス | **ipv6** ipv6-address }[**vrf**VRF 名]

no voice-phone-proxy tftp-address {**ipv4** IPv4 アドレス | **ipv6** ipv6-address }[**vrf**VRF 名]

構文の説明

ipv4/IPv4 アドレス TFTP サーバの IPv4 アドレス。
ス

ipv6/IPv6 アドレス TFTP サーバの IPv6 アドレス。
ス

vrfVRF 名 TFTP サーバの VRF の名前。

コマンド デフォルト

TFTP サーバの IP アドレスまたは VRF 名が指定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード (config)

コマンド履歴

リリース	変更
15.3(3)M	このコマンドが導入されました。
IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドは、 ipv6 キーワードを追加するように拡張されました。

例

次の例は、TFTP サーバの IP アドレスと VRF を指定する方法を示しています。

```
Device(config)# phone-proxy tftp-address ipv4 198.51.100.1 vrf vrf1
```

ボイスポート

アナログ電話機の Private Line Automatic Ringdown (PLAR) 接続を有効にするには、SCCP PLAR 設定モードで **voiceport** コマンドを使用します。音声ポートから PLAR を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voiceportport-numberdialdial-string[**digit**dtmf-digits[**wait-connect**wait-msecs][**interval**inter-digit-msecs]]
novoiceportport-number

構文の説明

ポート番号	アナログ外国交換局 (FXS) 音声ポート番号。範囲: 2/0 から 2/23。
dial ダイヤル文字列	電話のキーパッドでダイヤルできる最大 16 文字の文字列。有効な文字は 0～9、A～D、*(アスタリスク)、#(ポンド記号)です。音声ゲートウェイは、アナログ電話がオフフックになると、この文字列を通話制御システムに送信します。
digit dtmf 数字	(オプション) 電話のキーパッドでダイヤルできる最大 16 文字の文字列。有効な文字: 0～9、A～D、*(アスタリスク)、シャープ(#)、およびカンマ(,)。音声ゲートウェイは、 <i>wait-msecs</i> が経過すると、この文字列をコール制御システムに送信します。各コンマは 1 秒の待機を表します。
wait-connect 待機ミリ秒	(オプション) 音声ゲートウェイが音声カットスルー後に DTMF 数字を送信するまで待機する時間(ミリ秒)。範囲: 0～30000 (50 の倍数)。デフォルト値: 50。0 の場合、通話が接続された後、音声ゲートウェイによって DTMF 数字が自動的に送信されます。
interval 桁間ミリ秒	(オプション) DTMF 数字間のミリ秒数。範囲: 50～500 (50 の倍数)。デフォルト: 50。

コマンドデフォルト

無効 (音声ポートに PLAR が設定されていません)。

コマンドモード

SCCP PLAR 設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(6)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、コール制御に Skinny Client Control Protocol (SCCP) を使用するアナログ FXS ポートで PLAR を有効にします。**digit** キーワードが使用されない場合、DTMF 数字は出力されず、音声ポートは単純な PLAR 接続を使用し、他のキーワードは使用できません。

音声ポートは任意の順序で設定できます。たとえば、ポート 2/0 の前にポート 2/23 を設定できます。 **showrunning-config** コマンドはポートを昇順にリストします。

PLAR ポートが動作可能になる前に、まず **servicestcapp** コマンドを使用して、対応するダイヤルピアで STC アプリケーションを有効にする必要があります。ダイヤルピアで STC アプリケーションを有効にする前に PLAR のポートを設定すると、警告メッセージが表示されます。

PLAR 電話は、通常のアナログ電話と同じ機能のほとんどをサポートします。PLAR 電話は着信コールを処理し、コール転送、コールウェイティング、会議などの基本的な補足機能のためのフックフラッシュをサポートします。PLAR 電話は、通話転送、リダイヤル、スピードダイヤル、コールパーク、PLAR 電話からの通話ピックアップ、AMWI、発信者 ID などの他の機能をサポートしていません。

例

次の例では、ポート 2/0、2/1、および 2/3 で PLAR 機能を有効にします。電話ユーザがポート 2/0 に接続されたアナログ電話の受話器を取り上げると、システムは自動的に内線 3660 を呼び出し、500 ミリ秒待ってから 1234 をダイヤルします。DTMF 番号は 200 ミリ秒間隔で宛先ポートに送信されます。

```
Router(config)# sccp plar
Router(config-sccp-plar)# voiceport 2/0 dial 3660 digit 1234 wait-connect 500 interval
200
Router(config-sccp-plar)# voiceport 2/1 dial 3264 digit 678,,9*0,,#123 interval 100
Router(config-sccp-plar)# voiceport 2/3 dial 3478 digit 34567 wait-connect 500
```

関連コマンド

Command	Description
dial-peervoice	ダイヤルピア設定モードに入り、ダイヤルピアを定義します。
sccpplar	SCCP PLAR 設定モードに入ります。

voice-port

音声ポート設定モードに入るには、グローバル設定モードで **voice-port** コマンドを使用します。

Cisco 1750 および Cisco 1751

voice-port スロット番号/*port*

Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 7200 シリーズ

voice-port {スロット番号/サブユニット番号/*port* | スロット/*port*:*ds0-group-no*}

Cisco 2600 および Cisco 3600 シリーズ (高密度アナログ ネットワーク モジュール NM-HDA) 搭載

スロット番号/サブユニット番号/*port***voice-port**

Cisco AS5300

voice-port コントローラ番号:**D**

構文の説明

スロット番号	音声インターフェイスカード (VIC) がインストールされているルーターのスロット番号。有効なエントリは、インストールされているスロットに応じて 0 ~ 2 です。
ポート	Voice port number. 有効な値は 0 と 1 です。
スロット番号	VIC がインストールされているルータのスロット番号。有効なエントリは 0 から 2 までで、VIC がインストールされているスロットに応じて決まります。
サブユニット番号	Subunit on the VIC in which the voice port is located. 有効な値は 0 または 1 です。
ポート	Voice port number. 有効な値は 0 と 1 です。
スロット	音声ポートアダプタがインストールされているルーターの場所。有効なエントリは 0 から 3 までです。
ポート:	音声インターフェイスカードの位置を示します。有効な値は 0 と 3 です。
<i>ds0-group-no</i>	定義された DS0 グループ番号を示します。定義された各 DS0 グループ番号は、個別の音声ポートで表されます。これにより、デジタル T1/E1 カードに個別の DS0 を定義できます。
コントローラ番号	T1 または E1 コントローラ。
: D	ISDN PRI に関連付けられた D チャネル。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)T	このコマンドが導入されました。
11.3(3)T	このコマンドが Cisco 2600 シリーズに実装されました。
12.0(3)T	このコマンドが Cisco AS5300 に実装されました。
12.0(7)T	このコマンドは、Cisco AS5800、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco 1750 に実装されました。Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの引数が追加されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 1751 および Cisco 1760 に実装されました。このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3640、および Cisco 3660 上の NM-HDA の追加ポートに対応するために変更されました。
12.2(2)XN	Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco VG200 用の Cisco CallManager バージョン 3.1 に、拡張 MGCP 音声ゲートウェイ相互運用性のサポートが追加されました。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(11)T および Cisco CallManager バージョン 3.2 に統合され、Cisco IAD2420 シリーズに実装されました。
12.2(13)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(13)T に統合されました。このコマンドは、Cisco AS5300 または Cisco AS5800 の拡張エコーキャンセラ (EC) 機能をサポートしていません。

使用上のガイドライン

グローバル構成モードから音声ポート構成モードに切り替えるには、**voice-port** グローバル構成モードコマンドを使用します。**exit** コマンドを使用して、音声ポート構成モードを終了し、グローバル構成モードに戻ります。



(注) このコマンドは、Cisco AS5300 の拡張エコーキャンセラ (EC) 機能をサポートしていません。

例

次の例では、スロット 1 にインストールされた VIC のサブユニット 0 にあるポート 0 の音声ポート設定モードにアクセスします。

```
voice-port 1/0/0
```

次の例では、Cisco AS5300 の音声ポート設定モードにアクセスします。

```
voice-port 1:D
```

関連コマンド

Command	Description
dial-peervoice	ダイヤルピア設定モードに入り、音声カプセル化の方法を指定します。

音声ポート (MGCP プロファイル)

voice-port(MGCP プロファイル)コマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(8)T では **port**(MGCP プロファイル) コマンドに置き換えられました。詳細については、**port** (MGCP プロファイル) コマンドを参照してください。

voice-port busyout

シリアルまたは ATM インターフェイスに関連付けられたすべての音声ポートをビジーアウト状態にするには、**interface** 構成モードで **voice-portbusyout** コマンドを使用します。このインターフェイスに関連付けられている音声ポートでビジーアウト状態を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-portbusyout
novoice-portbusyout

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

インターフェイス上の音声ポートはビジーアウト状態ではありません。

コマンド モード

インターフェイス設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(3)T	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、**busyoutmonitor** および **busyoutseize** コマンドを使用して特定の条件下でビジーアウトするように設定された音声ポートを除き、インターフェイスに関連付けられているすべての音声ポートをビジーアウトにします。

例

次の例では、シリアル インターフェイス 1 に関連付けられた音声ポートをビジーアウト状態にします。

```
interface serial 1
 voice-port busyout
```

次の例では、ATM インターフェイス 0 に関連付けられた音声ポートをビジーアウト状態にします。

```
interface atm 0
 voice-port busyout
```

関連コマンド

Command	Description
busyoutforced	音声ポートを強制的にビジーアウト状態にします。
busyoutmonitor	音声ポートをビジーアウト モニタ状態にします。
busyoutseize	FXO または FXS 音声ポートのビジーアウトアクションを変更します。

Command	Description
showvoicebusyout	音声通話中状態に関する情報を表示します。

voice rtp send-recv

リアルタイム トランスポート プロトコル (RTP) チャネルが開かれているときに双方向音声パスを確立するには、**voicertpsend-recvcommandin** グローバル コンフィギュレーション モードを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicertpsend-recv
novoicertpsend-recv

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

RTP チャネルが開かれると、音声パスは逆方向にのみカットスルーされます。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、Cisco 7500 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco AS5800、および Cisco MC3810 プラットフォームで導入されました。
12.2(2)XA	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、宛先スイッチから Connect メッセージを受信する前に、音声パスを逆方向と順方向の両方でカットスルー (確立) する必要がある場合にのみ有効にする必要があります。このコマンドは、有効になっている場合、すべての VoIP 通話に影響します。

例

次の例では、RTP チャネルが開かれたときに音声パスを両方向にカットスルーできるようにします。

```
voice rtp send-recv
```

voice rtp source-filter

H.323、MGCP、SIP、または SCCP プロトコルのパケットを受信しているときに、リアルタイムトランスポートプロトコル (RTP) または RTP 制御プロトコル (RTCP) ストリームのソースを確認するには、**voice rtp source-filter** コマンドを使用します。フィルタリングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注) **voice rtp source-filter** コマンドは、ISR-G2 (3945e) ルータにのみ適用されます。

voicertpsource-filter
novoicertpsource-filter

コマンド デフォルト	音声 RTP ソース フィルタリングが有効になっています。	
コマンド モード	voice service VoIP 構成 (conf-voi-serv)	
コマンド履歴	リリース	変更
	15.5(3)M9	このコマンドが導入されました。
	15.6(3)M6	

使用上のガイドライン IOS ゲートウェイがアクティブな通話と同じ IP アドレスとポート宛ての無効な RTP ストリームを受信すると、公衆交換電話網 (PSTN) の発信者にセキュリティリスクが発生する可能性があります。無効なストリームには、異なる送信元 IP アドレスとポートがあります。ゲートウェイは、有効な RTP ストリームと無効な RTP ストリームの両方を混合し、PSTN 発信者に再生します。VOIP シグナリングを通じてネゴシエートされたものとは異なる送信元 IP アドレスとポート番号を持つ RTP パケットをフィルタリングする場合は、**voice rtp source-filter** コマンドを使用します。

例 次の例は、RTP パケットをフィルタリングする方法を示しています。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device (config) #voice service voip
Device (conf-voi-serv) #voice rtp source-filter
```

関連コマンド	コマンド	description
	voice service voip	音声カプセル化タイプを指定し、音声サービス設定モードに入ります。

コマンド	description
voice rtp send-recv	リアルタイムトランスポートプロトコル(RTP)チャンネルが開かれたときに双方向の音声パスを確立します。

音声サービス DSP 予約

音声カード上の VOIP 専用予約されている DSP リソースの割合を指定するには、音声カード設定で **voice-servicedsp-reservation** コマンドを使用します。DSP リソースの割合をリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice-service-dspreservationパーセンテージ

no voice-service-dspreservationパーセンテージ

構文の説明

パーセンテージ	この音声カード上で音声サービス用に予約されている DSP リソースの割合。残りの DSP リソースはビデオ サービスに使用できます。
---------	--

コマンド デフォルト

デフォルトの音声予約は 100% です。

コマンド モード

音声カードの設定 (config-voicecard)

コマンド履歴

リリース	変更
15.1(4)M	コマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、音声サービス用に音声カードの一定割合を予約します。残りの DSP リソースはビデオ サービスに使用されます。100% の予約は、すべての DSP リソースが音声サービスに使用されることを指定します。



(注) ビデオライセンスがあり、適切な PVDM#モジュールがインストールされている場合にのみ、100% 未満の割合を設定できます。



ヒント TDM 音声または DSP ファームプロファイルが設定されている場合に、音声サービス用に予約されている DSP リソースの割合を変更すると、DSP が断片化される可能性があります。最高のシステムのパフォーマンスを確保するには、**voice-service-dsp-reservation** 変更時にルータをリロードします。

例

次の例では、音声カード設定モードに入り、音声用の DSP リソースの割合を 60% に設定します。

```
Router(config)# voice card 0
Router(config-voicecard)# voice-service dsp-reservation 60
```

関連コマンド

コマンド	description
dspfarmprofile	指定された音声カードをDSPリソースプールに参加するカードに追加します。

音声サービス

音声サービス コンフィギュレーション モードを開始し、音声カプセル化タイプを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで `voice service` コマンドを使用します。

`voiceservice {pots | voatm | vofr | voip}`

構文の説明	
	pots 電話音声サービス。
	voatm Voice over ATM (VoATM) カプセル化。
	vofr Voice over Frame Relay (VoFR) カプセル化。
	voip Voice over IP (VoIP) のカプセル化。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(1)XA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
	12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
	12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの VoIP 用に Cisco IOS リリース 12.1(3)T に統合されました。
	12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に実装されました。
	12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
	12.1(5)XM	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
	12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン 音声サービス設定モードは、ゲートウェイにグローバルに影響を与えるパケットテレフォニー サービス コマンドに使用されます。

例

次の例では、VoATM サービス コマンドの音声サービス設定モードに入ります。

```
voice service voatm
```

音声 SIP SIP プロファイル

SIP プロファイル設定をルール形式または非ルール形式にアップグレードまたはダウングレードするには、**voice sip sip-profiles** コマンドを使用します。

voice sip sip-profiles {upgrade | downgrade }

構文の説明

upgrade すべての SIP プロファイル構成をルール形式にアップグレードします。

downgrade すべての SIP プロファイル構成を非ルール形式にダウングレードします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース 変更

15.5(2)T、Cisco IOS-XE リリース 3.15S このコマンドが導入されました。

例

SIP プロファイル構成をルール形式にアップグレードする場合:

```
Device# voice sip sip-profiles upgrade
```

SIP プロファイル設定を非ルール形式にダウングレードする場合:

```
Device# voice sip sip-profiles downgrade
```

voice sip oauth get-keys

CUCM から OAuth キーを取得するには、**voicesipoauthget-keys** コマンドを使用します。

voicesipoauthget-keys

コマンド デフォルト	なし。				
コマンド モード	SIP 構成モード。				
コマンド履歴	<table><tr><td>リリース</td><td>変更</td></tr><tr><td colspan="2">Cisco IOS XE Cupertino 17.8.1a このコマンドが導入されました。</td></tr></table>	リリース	変更	Cisco IOS XE Cupertino 17.8.1a このコマンドが導入されました。	
リリース	変更				
Cisco IOS XE Cupertino 17.8.1a このコマンドが導入されました。					
使用上のガイドライン	コール マネージャからキーを取得するには、SRST の voicesipoauthget-keys コマンドを使用します。				

voice source-group

音声通話の送信元 IP グループを定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voicemsource-group** コマンドを使用します。送信元 IP グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemsource-group*name*
no**voicemsource-group***name*

構文の説明

名前	IP グループの名前。送信元 IP グループ名の最大長は英数字 31 文字です。
----	--

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

voicemsource-group コマンドを使用して、送信元 IP グループの特性のセットに名前を割り当てます。終端ゲートウェイはこれらの特性を使用して着信 VoIP 通話を識別し、変換します。

キャリア ID と トランク グループ ラベルの名前は同じにできません。

送信元 IP グループ内でキャリア ID と トランク グループ ラベルを混在させないでください。

終端ゲートウェイは、**carrier ID source IP** グループと **trunk-group-label source IP** グループを使用して設定できます。送信元 IP グループの名前はゲートウェイに対して一意である必要があります。

例

次の例では、VoIP 通話の送信元 IP グループ「**utah2**」を開始します。

```
Router(config)# voice source-group utah2
```

関連コマンド

コマンド	description
access-list	着信コールを識別するためのソース グループのリストを定義します。
carrier-id (voice source group)	VoIP 通話を処理するキャリアを指定します。
description (voice source group)	送信元 IP グループに切断原因を割り当てます。

コマンド	description
h323zone-id (voice source group)	着信 H.323 コールにゾーン ID を割り当てます。
translation-profile (source group)	変換プロファイルを送信元 IP グループに割り当てます。
trunk-group-label (voice source group)	VoIP 通話を処理するトランクを指定します。

voice statistics accounting method

特定のアカウント方式リストの音声アカウント統計情報を収集できるようにし、コールログのパス基準を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voicestatisticsaccountingmethod** コマンドを使用します。アカウント方式の統計情報の収集を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicestatisticsaccountingmethod メソッドリスト名 **pass** {**start-interim-stop** | **start-stop** | **stop-only**}
no voicestatisticsaccountingmethod メソッドリスト名 **pass** {**start-interim-stop** | **start-stop** | **stop-only**}

構文の説明	
method-list-name	会計方法リストの名前です。method-list-name 引数は、ゲートウェイアカウント AAA 設定モードで method コマンドを使用して設定された引数と同じです。
pass	メソッドリストで使用されるコールログ (PSTN または IP) およびコール方向 (着信または発信) のパス基準。 (注) パスの定義は、すべての開始、停止、または中間メッセージが指定されたサーバによって確認されることを意味します。失敗の定義は、開始、停止、または中間メッセージが指定されたサーバによって拒否されるか、タイムアウトになることを意味します。
start-interim-stop	すべての開始、中間、および停止の合格基準レコードがカウントされます。
start-stop	すべての開始および停止合格基準レコードがカウントされます。
停止のみ	停止合格基準レコードのみがカウントされます。

コマンド デフォルト 指定されたアカウント方式リストの統計は収集されません。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、メソッドリストとして h323 が指定されており、合格基準が stop-only であることを示しています。

```
Router(config)# voice statistics accounting method h323 pass stop-only
```

関連コマンド

コマンド	description
method	使用する AAA 方式リスト名を指定します。
showvoicestatistics csr interval accounting	アカウントリング統計の設定された間隔ごとに統計情報を表示します。
show voice statistics csr since-reset accounting	最後のリセット以降のすべてのアカウントリング CSR を表示します。
voice statistics display-format separator	CSR 表示の形式を指定します。
voice statistics field-params	MCD、lost-packet、packet-latency、および packet-jitter パラメータを指定します。
voice statistics max-storage-duration	CSR がシステム メモリに保存される最大時間を指定します。
voice statistics push	CSR をダウンロードするための FTP または syslog サーバ、最大ファイルサイズ、および最大メッセージサイズを指定します。
voice statistics time-range	CSR を収集する時間範囲を指定します。
voice statistics type	アカウントリングおよびシグナリング CSR の収集を有効にします。

voice statistics display-format separator

ゲートウェイの統計情報の表示形式を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voicestatisticsdisplay-formatseparator** コマンドを使用します。統計の表示形式をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicestatisticsdisplay-formatseparator {space | tab | new-line | charchar}
novoicestatisticsdisplay-formatseparator {space | tab | new-line | charchar}

構文の説明	separator	表示される形式で使用される区切り文字の種類。
	space	表示される出力内の各統計間の書式設定にはスペースが使用されます。
	tab	表示される出力内の各統計間の書式設定にはタブが使用されます。
	new-line	表示される出力内の各統計間の書式設定には新しい行が使用されます。
	char チャー	表示される出力内の各統計間の書式設定には文字が使用されます。Char引数は、表示される出力内の各統計間の書式設定に使用される表示可能なASCII文字です。

コマンド デフォルト デフォルトの区切り文字はコンマ (,) です。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例 次の例では、スペースが表示区切り文字として指定されています。

```
Router(config)# voice statistics display-format separator space
```

関連コマンド	コマンド	description
	voicestatisticsaccountingmethod	アカウントリング方法と合格および不合格の基準を有効にします。
	voicestatisticsfield-params	MCD、lost-packet、packet-latency、および packet-jitter パラメータを指定します。
	voicestatisticsmax-storage-duration	CSR がシステム メモリに保存される最大時間を指定します。

コマンド	description
voicestatisticspush	CSR をダウンロードするための FTP または syslog サーバー、最大ファイルサイズ、および最大メッセージサイズを指定します。
voicestatisticstime-range	CSR を収集する時間範囲を指定します。
voicestatisticstype	アカウントリングおよびシグナリング CSR の収集を有効にします。

voice statistics field-params

ゲートウェイのコール統計フィールドのパラメータを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voicestatisticsfield-params** コマンドを使用します。通話統計パラメータをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicestatisticsfield-params {mcd値 | lost-packet値 | packet-latency値 | packet-jittervalue}

novoicestatisticsfield-params {mcd値 | lost-packet値 | packet-latency値 | packet-jittervalue}

構文の説明

mcd	最小通話時間。値引数は、ミリ秒数を表す整数です。有効な値は 0 ～ 30 です。デフォルト値は 2 です。
lost-packet	失われた音声パケットのしきい値。値引数はミリ秒を表す整数です。有効な値は 0 ～ 65535 です。デフォルト値は 1000 です。
packet-latency	音声パケットの遅延しきい値。値引数はミリ秒を表す整数です。有効な値は 0 ～ 500 です。デフォルト値は 250 です。
packet-jitter	音声パケットのジッターしきい値。値引数はミリ秒を表す整数です。有効な値は 0 ～ 1000 です。デフォルト値は 250 です。

コマンド デフォルト

MCD は 2 ミリ秒です。失われたパケットのしきい値は 1000 ミリ秒です。パケット遅延しきい値は 250 ミリ秒です。パケットジッターしきい値は 250 ミリ秒です。

コマンドモード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、最小通話時間を 5 ミリ秒に設定しています。

```
Router(config)# voice statistics field-params mcd 5
```

次の例では、パケット損失のしきい値を 250 ミリ秒に設定します。

```
Router(config)# voice statistics field-params lost-packet 250
```

次の例では、パケット遅延しきい値を 300 ミリ秒に設定します。

```
Router(config)# voice statistics field-params packet-latency 300
```

次の例では、パケットジッターしきい値を 245 ミリ秒に設定します。

```
Router(config)# voice statistics field-params packet-jitter 245
```

 関連コマンド

コマンド	description
voicestatisticsaccountingmethod	アカウントリング方法と合格および不合格の基準を有効にします。
voicestatisticsdisplay-formatseparator	CSR 表示の形式を指定します。
voicestatisticsmax-storage-duration	CSR がシステム メモリに保存される最大時間を指定します。
voicestatisticspush	CSR をダウンロードするための FTP または syslog サーバ、最大ファイル サイズ、および最大メッセージ サイズを指定します。
voicestatisticstime-range	CSR を収集する時間範囲を指定します。
voicestatisticstype	アカウントリングおよびシグナリング CSR の収集を有効にします。

voice statistics max-storage-duration

収集された統計情報がゲートウェイのシステムメモリに保存される最大時間を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voicestatisticsmax-storage-duration** コマンドを使用します。設定された最大保存期間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice statistics max-storage-duration {day値 | hour値 | minute値}

no voice statistics max-storage-duration {day値 | hour値 | minute値}

構文の説明	day	通話統計データを保存する日数。値引数の有効範囲は 0 ~ 365 です。
	hour	コール統計データを保存する時間数。値引数の有効範囲は 0 ~ 720 です。
	minute	コール統計データを保存する分数。値引数の有効範囲は 0 ~ 1440 です。

コマンド デフォルト 時間の長さが設定されていない場合、収集間隔の終了後に停止した通話統計レコードにはメモリが割り当てられません。メモリが割り当てられていない場合は、アクティブな通話統計レコードバッファのみがシステムメモリに保持されます。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 最大保存期間とは、ゲートウェイ上の通話統計レコードが存在する期間を意味します。このコマンドを使用して入力された値は、VoIP 内部エラー コード (IEC) の収集にも適用されます。

例 次の例は、音声通話統計の収集の最大保存期間が 60 分に設定されていることを示しています。

```
Router(config)# voice statistics max-storage-duration minute 60
```

関連コマンド	コマンド	description
	voice statistics accounting method	accounting method と合格および不合格の基準を有効にします。
	voice statistics display-format separator	CSR 表示の形式を指定します。

コマンド	description
voice statistics field-params	MCD、lost-packet、packet-latency、および packet-jitter パラメータを指定します。
voice statistics push	CSR をダウンロードするための FTP または syslog サーバ、最大ファイル サイズ、および最大メッセージ サイズを指定します。
voice statistics time-range	CSR を収集する時間範囲を指定します。
voice statistics type	アカウンティングおよびシグナリング CSR の収集を有効にします。

voice statistics push

シグナリング統計、VoIP AAA アカウンティング統計、または Cisco 内部エラーコード (IEC) を FTP サーバまたは syslog サーバにプッシュする方法を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voicestatisticspush** コマンドを使用します。設定されたプッシュ メソッドを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
{voicestatisticspushftpurlftp-url[max-file-size値] | syslog[max-msg-size値]}
{novoicestatisticspushftpurlftp-url[max-file-size値] | syslog[max-msg-size値]}
```

構文の説明	
<i>ftp url</i>	音声統計をプッシュする FTP サーバの URL。ftp-url 引数の構文は次のとおりです: ftp://user:password@host:port//directory1/directory2
最大ファイルサイズ	(オプション) FTP サーバにプッシュされる音声統計ファイルの最大サイズ (バイト単位)。value 引数の有効範囲は 1024 から 4294967296 で、デフォルト値は 400000000 (4 GB) です。
シスログ	音声統計は syslog サーバにプッシュされます。
最大メッセージサイズ	(オプション) syslog サーバにプッシュされる音声統計ファイルの最大サイズ (バイト単位)。値 引数の有効範囲は 1024~4294967296 です。デフォルト値は 400000000 (4GB) です。

コマンド デフォルト 音声統計は FTP または syslog サーバにプッシュされません。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ゲートウェイ構成は、FTP サーバまたは syslog サーバの構成と一致している必要があります。このコマンドは、Cisco VoIP 内部エラーコード (IEC) を FTP サーバまたは syslog サーバにプッシュするためにも使用できます。

例

以下は、指定された FTP サーバと最大ファイル サイズを示す構成例です。

```
Router(config)# voice statistics push ftp url
ftp://john:doe@abc:23//directory1/directory2 max-file-size 10000
```

関連コマンド

コマンド	description
voice statistics accounting method	accounting method と合格および不合格の基準を有効にします。
voice statistics display-format separator	CSR 表示の形式を指定します。
voice statistics field-params	MCD、lost-packet、packet-latency、および packet-jitter パラメータを指定します。
voice statistics max-storage-duration	CSR がシステム メモリに保存される最大時間を指定します。
voice statistics time-range	CSR を収集する時間範囲を指定します。
voice statistics type	アカウントティングおよびシグナリング CSR の収集を有効にします。

voice statistics time-range

ゲートウェイから統計情報を収集する期間を、一定周期ごと、前回リセット以降、または特定の時間範囲として指定するには、global 構成モードで、**voicestatisticstime-range** コマンドを使用します。時間範囲設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

定期的な統計収集

voice statistics time-rangeperiodic 間隔 **start** *hh:mm* {**days-of-week** {**Monday** | **Tuesday** | **Wednesday** | **Thursday** | **Friday** | **Saturday** | **Sunday** | **daily** | **weekday** | **weekend**}} [**end** *hh:mm* {**days-of-week** | **Monday** | **Tuesday** | **Wednesday** | **Thursday** | **Friday** | **Saturday** | **Sunday** | **daily** | **weekday** | **weekend**}]
no voice statistics time-rangeperiodic 間隔 **start** *hh:mm* {**days-of-week** {**Monday** | **Tuesday** | **Wednesday** | **Thursday** | **Friday** | **Saturday** | **Sunday** | **daily** | **weekday** | **weekend**}} [**end** *hh:mm* {**days-of-week** | **Monday** | **Tuesday** | **Wednesday** | **Thursday** | **Friday** | **Saturday** | **Sunday** | **daily** | **weekday** | **weekend**}]

ゲートウェイの最後のリセットまたは再起動以降の統計収集

voicestatisticstime-rangesince-reset
novoicestatisticstime-rangesince-reset

特定の期間における統計収集

voicestatisticstime-rangespecific **start** *hh:インチ日月年* **end** *hh:インチ日月年*
novoicestatisticstime-rangespecific **start** *hh:インチ日月年* **end** *hh:インチ日月年*

構文の説明

定期的な統計収集:	
periodic	設定された期間の通話統計が収集されます。
間隔	統計を収集する定期的な間隔を指定します。この値の有効な入力値は、 5minutes 、 15minutes 、 30minutes 、 60minutes 、 1day です。
start/end	統計収集の開始期間と終了期間を指定します。終了時刻を入力しない場合、統計収集は継続されます。デフォルトでは、収集期間に終了はありません。
時:分	定期的な統計収集の開始時刻と終了時刻を時間と分で指定します。入力する時間は24時間形式にする必要があります。

days-of-week	<p>通話統計を収集する週の開始曜日と終了曜日を指定します。特定の曜日、または次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • daily--コール統計を日次で収集します。 • weekdays--コール統計を平日のみ収集します。 • weekend--コール統計を週末のみ収集します。 <p>デフォルト値は毎日です。</p>
ゲートウェイの最後のリセットまたは再起動以降の統計収集	
since-reset	<p>通話統計は、ゲートウェイのリセットまたは再起動以降にのみ収集されます。</p> <p>(注) ゲートウェイ上の音声統計収集は、clearvoicestatisticscsr コマンドを使用してリセットされます。</p>
StatisticsCollectionataSpecifiedTimeDuration:	
specific	通話統計は特定の期間にわたって収集されます。
start/end	<p>統計収集の開始時刻と終了時刻を指定します。Start キーワードと end キーワードの両方に必要な引数は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • hh:mm--時間と分。入力する時間は 24 時間形式にする必要があります。 • day--月内の日。1 ~ 31 の範囲の値を指定できます。 • month--統計収集を開始する月。月の名前を入力します(例:1月、2月)。デフォルト値は現在の月です。 • 年--年。有効な値は 1993 から 2035 までです。デフォルト値は現在の年です。

デフォルトでは統計は収集されません。

コマンドモード

グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

一度に実行できる特定の構成または定期的な構成は1つだけです。2番目の特定の構成または定期的な構成が設定されている場合、要求は拒否され、警告メッセージが表示されます。特定の時間範囲内でコマンドの `no` 形式を使用すると、対応する収集が停止し、FTP または `syslog` メッセージは送信されません。

例

次の例は、時間範囲が定期的に設定されており、平日の午前 12 時から 60 分間のみ統計を収集するように設定されていることを示しています。

```
Router(config)# voice statistics time-range periodic 60minutes start 12:00 days-of-week weekdays
```

次の例では、ゲートウェイが最後のリセット (`clearvoicestatisticscsr` コマンドで指定) 以降、またはゲートウェイが最後に再起動されてからの通話統計を収集するように設定します。

```
Router(config)# voice statistics time-range since-reset
```

次の例では、1月1日の午前10時から1月2日の午前12時まで統計を収集するようにゲートウェイを設定します。

```
Router(config)# voice statistics time-range specific start 10:00 1 January 2004 end 12:00 2 January 2004
```

関連コマンド

コマンド	description
<code>clearvoicestatistics</code>	Clears voice statistics, resetting the statistics collection.
<code>voicestatisticsaccountingmethod</code>	accounting method と合格および不合格の基準を有効にします。
<code>voicestatisticsdisplay-formatseparator</code>	CSR 表示の形式を指定します。
<code>voicestatisticsfield-params</code>	MCD、lost-packet、packet-latency、および packet-jitter パラメータを指定します。
<code>voicestatisticsmax-storage-duration</code>	CSR がシステム メモリに保存される最大時間を指定します。
<code>voicestatisticspush</code>	CSR をダウンロードするための FTP または <code>syslog</code> サーバー、最大ファイルサイズ、および最大メッセージサイズを指定します。
<code>voicestatisticstype</code>	アカウントिंगおよびシグナリング CSR の収集を有効にします。

音声 統計 タイプ CSR

ゲートウェイが VoIP AAA アカウンティング統計情報または音声シグナリング統計情報を個別または同時に収集するように設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voicestatisticstypecsr** コマンドを使用します。カウンターを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicestatisticstypecsr[accounting | signaling]
no voicestatisticstypecsr[accounting | signaling]

構文の説明	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="423 625 581 680">accounting</td> <td data-bbox="586 625 1347 680">(オプション) VoIP AAA アカウンティング統計が収集されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="423 686 581 772">シグナリング</td> <td data-bbox="586 686 1347 772">(オプション) 音声シグナリングの統計が収集されます。</td> </tr> </table>	accounting	(オプション) VoIP AAA アカウンティング統計が収集されます。	シグナリング	(オプション) 音声シグナリングの統計が収集されます。
accounting	(オプション) VoIP AAA アカウンティング統計が収集されます。				
シグナリング	(オプション) 音声シグナリングの統計が収集されます。				
コマンド デフォルト	ゲートウェイではアカウンティングまたはシグナリングコール統計レコード(CSR)は収集されません。				
コマンド モード	グローバル構成				
コマンド履歴	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="423 1024 532 1115">リリース</td> <td data-bbox="537 1024 938 1115">変更</td> </tr> <tr> <td data-bbox="423 1121 532 1171">12.3(4)T</td> <td data-bbox="537 1121 938 1171">このコマンドが導入されました。</td> </tr> </table>	リリース	変更	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
リリース	変更				
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	<p>キーワードを指定しない場合は、アカウンティング CSR とシグナリング CSR の両方が収集されます。アカウンティングとシグナリングの CSR 収集は、個別に有効化および無効化できません。</p> <p>次の例は、両方のタイプの CSR が収集されることを示しています。</p> <pre>Router(config)# voice statistics type csr</pre> <p>次の例では、アカウンティング CSR の収集を有効にします。</p> <pre>Router(config)# voice statistics type csr accounting</pre> <p>次の例では、シグナリング CSR の収集を有効にします。</p> <pre>Router(config)# voice statistics type csr signaling</pre> <p>次の例では、シグナリング CSR とアカウンティング CSR の両方の収集を無効にします。</p>				
例					

```
Router(config)# no
voice statistics type csr
```

次の例では、シグナリング CSR のみの収集を無効にします。

```
Router(config)# no
voice statistics type csr signaling
```

関連コマンド

コマンド	description
voice statistics accounting method	accounting method と合格および不合格の基準を有効にします。
voice statistics display-format separator	CSR 表示の形式を指定します。
voice statistics field-params	MCD、lost-packet、packet-latency、および packet-jitter パラメータを指定します。
voice statistics max-storage-duration	CSR がシステムメモリに保存される最大時間を指定します。
voice statistics push	CSR をダウンロードするための FTP または syslog サーバ、最大ファイルサイズ、および最大メッセージサイズを指定します。
voice statistics time range	CSR を収集する時間範囲を指定します。

voice statistics type iec

内部エラーコード (IEC) 統計の収集を有効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで `voice statistics type iec` コマンドを使用します。IEC 統計収集を無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

voicestatisticstypeiec
novoicestatisticstypeiec

構文の説明 このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト IEC 統計収集は無効です。

コマンド モード グローバル構成。

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

例 次の例では、IEC 統計収集を有効にします。

```
Router(config)# voice statistics type iec
```

関連コマンド	コマンド	description
	clearvoicestatistics	Clears voice statistics, resetting the statistics collection.
	showvoicestatistics	音声統計を表示します
	showvoicestatisticsinterval-tag	IEC 統計に使用可能な間隔オプションを表示します
	voicestatisticstime-rangesince-reset	IEC カウンタの最後のリセット以降に蓄積された通話統計の収集を有効にします

voice translation-profile

音声通話の変換プロファイルを定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voicetranslation-profile** コマンドを使用します。翻訳プロファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicetranslation-profile*name*
novoicetranslation-profile*name*

構文の説明

名前	翻訳プロファイルの名前。音声翻訳プロファイル名の最大長は英数字31文字です。
----	--

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANGモデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

翻訳ルールが定義された後、それらはプロファイルにグループ化されます。プロファイルは、一連のルールを収集し、それらを組み合わせて、着信番号、発信番号、および転送された番号を具体的な方法で変換します。最大 1000 個のプロファイルを定義できます。各プロファイルには一意の名前を付ける必要があります。

これらのプロファイルは、トランク グループ、ダイヤル ピア、ソース IP グループ、音声ポート、および通話変換を処理するインターフェイスによって参照されます。

例

次の例では、音声通話用の翻訳プロファイル「westcoast」を開始します。プロファイルは、さまざまなタイプの通話に対して変換ルール 1、2、および 3 を使用します。

```
Router(config)# voice translation-profile westcoast
Router(cfg-translation-profile)# translate calling 2
Router(cfg-translation-profile)# translate called 1
Router(cfg-translation-profile)# translate redirect-called 3
```

関連コマンド

コマンド	description
rule (voice translation-rule)	通話変換基準を定義します。
show voice translation-profile	1 つ以上の変換プロファイルを表示します。
translate (translation profiles)	翻訳ルールを音声翻訳プロファイルに関連付けます。

voice translation-rule

音声通話の変換ルールを定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voicetranslation-rule** コマンドを使用します。変換ルールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicetranslation-rulenumbers
novoicetranslation-rulenumbers

構文の説明	<i>number</i> 変換ルールを識別する番号。範囲は1から2147483647です。
-------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANGモデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン **voicetranslation-rule** コマンドを使用して、変換ルールの定義を作成します。各定義には、通話翻訳を処理するための SED のような表現を含む最大 15 個のルールが含まれます。最大 128 個の翻訳ルールがサポートされます。

これらの変換ルールは、トラックグループ、ダイヤルピア、ソース IP グループ、音声ポート、インターフェイスが参照するプロファイルにグループ化されます。

例 次の例では、2 つのルールを含む変換ルール 150 を開始します。

```
Router(config)# voice translation-rule 150
Router(cfg-translation-rule)# rule 1 reject /^408\.(\\)/
Router(cfg-translation-rule)# rule 2 /\(^...\)853\(...\) / /\1525\2/
```

関連コマンド	コマンド	description
	rule(voicetranslation-rule)	翻訳ルールの一致、置換、拒否のパターンを定義します。
	showvoicetranslation-rule	変換ルールの構成を表示します。

voice vad-time

音声アクティビティ検出（VAD）の最小無音検出時間を変更するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **voicevad-time** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicevad-time ミリ秒

novoicevad-time

構文の説明	ミリ秒	無音を検出して音声パケットの送信を抑制するまでの待機期間（ミリ秒）。範囲は 250 ~ 65536 です。デフォルト値は 250 です。
-------	-----	--

コマンド デフォルト 250 ミリ秒

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)XK	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。
	12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、ルータまたはコンセントレータ上のすべての音声ポートに影響しますが、すでに進行中の通話には影響しません。

このコマンドは、音声チャネルがアイドル状態のときには VAD を有効にし、通話中には有効にしないようにしたい透明共通チャネルシグナリング (CCS) アプリケーションで使用できません。無音検出遅延が長い場合、VAD はアイドル音声チャネルの無音には反応しますが、会話の一時停止には反応しません。

このコマンドは、ITU 標準化の組み込み VAD 機能を持つ音声コーデック (G.729B、G.729AB、G.723.1A など) には影響しません。これらのコーデックの VAD の動作とパラメータは、該当する ITU 標準によってのみ定義されます。

例 次の例では、VAD 無音検出を有効にする前に 20 秒の遅延を設定します。

```
voice vad-time 20000
```

関連コマンド	コマンド	description
	vad(dialpeer)	ネットワーク ダイアルピアでの音声アクティビティ検出を有効にします。

voice vrf

voice VRF を構成するには、global 構成モードで、**voicevrf** コマンドを使用します。voice VRF 構成を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicevrf*vrfname*
no**voicevrf***Vrf* 名

構文の説明

<i>vrf</i> 名	音声 VRF に割り当てられた名前。
-----------------	--------------------

コマンドデフォルト

音声 VRF は設定されていません。

コマンドモード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)XJ	このコマンドが導入されました。
12.4(15)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。

使用上のガイドライン

音声 VRF として設定する前に、**ipvrf***vrfname* コマンドを使用して VRF を作成する必要があります。

VRF の変更中に音声ゲートウェイでアクティブな通話がないことを確認するには、音声 VRF を設定または変更する前に、音声ゲートウェイで音声サービスをシャットダウンする必要があります。

例

次の例は、*vrf1* という VRF が作成され、音声 VRF として設定されたことを示しています。

```
ip vrf vrf1
  rd 1:1
  route-target export 1:2
  route-target import 1:2
!
voice vrf vrf1
!
voice service voip
```

関連コマンド

コマンド	description
ipvrf	VPN VRF インスタンスを定義し、VRF 設定モードに入ります。

VoIP 着信翻訳プロファイル

すべての着信 VoIP コールの変換プロファイルを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **voip-incomingtranslation-profile** コマンドを使用します。プロファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voip-incomingtranslation-profile*name*
no**voip-incomingtranslation-profile***name*

構文の説明	名前	翻訳プロファイルの名前。
-------	----	--------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **voip-incomingtranslation-profile** コマンドを使用して、すべての着信 VoIP 通話に変換プロファイルをグローバルに割り当てます。翻訳プロファイルは以前に **voicetranslation-profile** コマンドを使用して定義されました。**voip-incomingtranslation-profile** コマンドでは、定義を完了するために追加の手順は必要ありません。

H.323 コールが着信し、そのコールが変換プロファイルで定義されたソース IP グループに関連付けられている場合、ソース IP グループ変換プロファイルがグローバル変換プロファイルよりも優先されます。

例

次の例では、「global-definition」という名前の変換プロファイルをすべての着信 VoIP 通話に割り当てます。

```
Router(config)# voip-incoming translation-profile global-definition
```

関連コマンド	コマンド	description
	show voice translation-profile	すべての音声変換プロファイルの構成を表示します。
	test voice translation-rule	音声翻訳ルールの定義をテストします。
	voice translation-profile	翻訳プロファイルの定義を開始します。

voip-incoming translation-rule

H.323 互換クライアントから発信される通話の着信変換ルールを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **voip-incomingtranslation-rule** コマンドを使用します。着信変換ルールを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voip-incomingtranslation-rule {calling | called} name-tag
no voip-incomingtranslation-rule {calling | called} name-tag

構文の説明

名札	ルールセットを参照するタグ番号。これは任意に選択された数値です。範囲は1から2147483647です。デフォルト値はありません。
calling	自動番号識別 (ANI) 番号または発信者の番号。
called	ダイヤル番号情報サービス (DNIS) 番号または着信側の番号。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンドモード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)XR1	このコマンドは、Cisco AS5300 上の VoIP 用に導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 の VoIP 用に実装されました。
12.1(1)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合され、Cisco 1750、Cisco AS5300、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco 7500 シリーズ プラットフォーム上の VoIP 用に実装されました。
12.1(2)T	このコマンドは、Cisco MC3810 上の VoIP 用に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、指定されたタグ名の発信番号または着信番号に応じて、すべての IP ベースの通話がキャプチャされ、処理されます。

例

次の例は、H.323 互換クライアントから発信される通話のルールセットを識別します。

```
Router (config) # voip-incomingtranslation-rulecalled5
```

関連コマンド

コマンド	description
numbering-type	dial-peer call leg の番号タイプの 1 つと一致します。
rule	着信と発信の両方の発信側番号または着信側番号にトランスレーションルールを適用します。
showtranslation-rule	特定のトランスレーション名に対して設定されたすべてのルールのコンテンツを表示します。
testtranslation-rule	特定のネームタグのトランスレーションルールの実行をテストします。
translate	着信コールに対して、発信側番号または着信側番号にトランスレーションルールを適用します。
translate-outgoing	着信コールに対して、発信側番号または着信側番号にトランスレーションルールを適用します。
translation-rule	トランスレーション名を作成し、translation-rule コンフィギュレーションモードを開始します。

voip trunk group

VOIP トランク グループを定義または変更し、トランク グループ設定モードに入るには、グローバル設定モードで **voip trunk group** コマンドを使用します。VOIP トランク グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voiptrunkgroup*name*
novoiptrunkgroup*name*

構文の説明

名前	voip trunk group の名前。有効な名前には最大 63 文字の英数字が含まれます。
----	---

コマンド デフォルト

voip trunk group が定義されていません。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

voip trunk group コマンドを使用して、VOIP トランクを定義し、トランクに保守性を拡張します。デフォルトでは、IP トランクのセッションプロトコルは h323 です。ゲートウェイにプロファイルを保存するのに十分なメモリがあれば、ゲートウェイ上で最大 1000 個のトランクグループを設定できます。

例

次の例では、VOIP trunk group を作成し、監視を有効にします。

```
Router(config)# voip trunk group siptrk1
Router(config-voip-trk)# session protocol sipv2
Router(config-voip-trk)# target ipv4: 10.1.1.15
Router(config-voip-trk)# xsvc
```

関連コマンド

コマンド	description
show voip trunk group	voip トランクグループの内部リストを表示します。
xsvc	トランク上の監視を有効にします。

音量

ルータのPOTSポートの受信音量レベルを設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **volume** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

volumenumber
novolumenumber

構文の説明

<i>number</i>	ゲインのデシベル (dB) を表す 1 ~ 5 の数値。範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1: -11.99 dB • 2: -9.7dB • 3: -7.7dB • 4: -5.7dB • 5: -3.7dB <p>デフォルト値は 3 (-7.7 dB ゲイン) です。</p>
---------------	---

コマンド デフォルト 3 (-7.7 dB ゲイン)

コマンド モード

Dial-peer voice 構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 803、Cisco 804、およびCisco 813 ルータで導入されました。

使用上のガイドライン

各 POTS ポートごとにコマンドを個別に設定します。 **volume** 音量レベルの設定は、設定されているポートにのみ影響します。



(注) このコマンドでは受信機の音量のみが設定されます。

showpotsvolume コマンドを使用して、ボリュームの状態とレベルを確認します。

例

次の例では、POTS ポート 1 の音量レベルが 4、POTS ポート 2 の音量レベルが 2 を示しています。

```
dial-peer voice 1 pots
 destination-pattern 5551111
 port 1
```

```
no call-waiting
ring 0
volume 4
dial-peer voice 2 pots
destination-pattern 5552222
port 2
no call-waiting
ring 0
volume 2
```

関連コマンド

コマンド	description
showpotsvolume	ルータ上の各POTSポートに設定されている受信音量を表示します。

vxml allow-star-digit

組み込みの type digits に対してアスタリスク (*) を許可するように Voice Extensible Markup Language (VXML) インタープリタを構成するには、global 構成モードで、**vxmlallow-star-digit** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vxmlallow-star-digit
novxmlallow-star-digit

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

VXML インタープリタが設定されていません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入しました。

例

次の例は、組み込みの type digits に対してアスタリスクを許可するように VXML インタープリタを設定する方法を示しています。

```
Router# configure terminal
Router(config)# vxml allow-star-digit
```

関連コマンド

コマンド	description
vxmlaudioerror	オーディオの再生が失敗したときにエラーイベントをスローできるようにします。
vxmlversionpre2.0	VoiceXML 2.0 機能を有効にします。

Vxml ロギングタグ

Nuance ASR でログタグヘッダーの取得を許可するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **vxmlllogging-tag** コマンドを使用します。 **logging-tag** コマンドは、RECOGNIZE または SPEAK および SET-PARAM メッセージの一部として、ログタグヘッダーを Nuance ASR に送信するのに役立ちます。コマンド構成はデフォルトで有効になっています。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vxmlllogging-tag
novxmlllogging-tag

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

有効です。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
15.5(3)M7	このコマンドは、Cisco IOS リリース 15.0(3)M7 で導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを有効にすると、ゲートウェイは RECOGNIZE または SPEAK および SET-PARAM メッセージの一部として、**logging-tag** ヘッダーを Nuance ASR に送信できるようになります。デフォルトでは、コマンドは有効な状態になっています。コマンドを無効にすると、ゲートウェイは RECOGNIZE または SPEAK で **Logging-tag** を送信しなくなります。ただし、**Logging-Tag** を伝送するのは SET-PARAM メッセージのみです。

例

次の例では、vxml の **logging-tag** 機能を無効にします。

```
Router(config)#no vxml logging-tag
```

vxml audioerror

オーディオの再生が失敗したときにエラーイベントをスローするようにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **vxmlaudioerror** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vxmlaudioerror
novxmlaudioerror

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

オーディオファイルを再生できない場合、オーディオエラー イベント **error.badfetch** はスローされません。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを入力すると、たとえば、ファイルがサポートされていない形式である、**src** 属性が無効な URI を参照している、または **expr** 属性が無効な URI に評価されるなどの理由でオーディオファイルを再生できない場合に、オーディオエラー イベント **error.badfetch** がスローされます。

vxmlaudioerror コマンドは **vxmlversion2.0** コマンドをオーバーライドするため、両方のコマンドを入力すると、オーディオファイルを再生できないときにオーディオエラー イベントがスローされます。

例

次の例では、オーディオエラー機能を有効にします。

```
Router(config)# vxml audioerror
```

関連コマンド

コマンド	description
vxmlversionpre2.0	VoiceXML 2.0 より前のバージョンと互換性のある機能を有効にします。

vxml tree memory

VoiceXMLパーサーツリーの最大メモリサイズを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **vxmltreememory** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vxmltreememory サイズ
novxmltreememory

構文の説明	サイズ	最大メモリサイズ(キロバイト単位)。値の範囲は 64 ~ 100000 です。デフォルト値は 1000 です。
-------	-----	---

コマンドデフォルト 1000 KB

コマンドモード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(15)T	このコマンドが導入されました。
	12.4(15)T	デフォルトが 64 から 1000 に変更されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、VoiceXML ドキュメントの解析に使用できるメモリリソースを制限し、大きなドキュメントが過剰なシステムメモリを消費するのを防ぎます。VoiceXML ツリーの最大メモリサイズを増やすと、呼び出しでより大きな VoiceXML ドキュメントを使用できるようになります。VoiceXML ドキュメントが制限を超えると、ゲートウェイはドキュメントの実行を中止し、**debugvxmlerror** コマンドは「vxml malloc fail」エラーを表示します。



(注) Cisco IOS リリース 12.3(4)T 以降のリリースでは、ドキュメントが VoiceXML ツリーに保存されないため、VoiceXML ドキュメントを解析するときに消費されるメモリが少なくなります。

例

次の例では、最大メモリサイズを 128 KB に設定します。

```
vxml tree memory 128
```

関連コマンド	コマンド	description
	debugvxmlerror	VoiceXML アプリケーションのエラーメッセージを表示します。

コマンド	description
ivrpromptmemory	ダイナミック オーディオ ファイル (プロンプト) がメモリ内で占めるメモリの最大量を設定します。
ivrrecordmemorysystem	ゲートウェイ上のすべての音声録音を保存するためのメモリの最大量を設定します。

Vxml バージョン 2.0

VoiceXML 2.0 機能を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vxmversion2.0** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vxmversion2.0
novxmversion2.0

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの VoiceXML 動作は、[W3C VoiceXML 2.0 仕様より前のバージョンと互換性があります](#)。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、次の VoiceXML 機能を有効にします。

- たとえば、ファイルがサポートされていない形式である、src 属性が無効な URI を参照している、または expr 属性が無効な URI に評価されるなどの理由でオーディオファイルを再生できない場合、オーディオエラー イベント `error.badfetch` はスローされません。
- <record> 要素の beep 属性のサポート。
- ブラインド転送は *W3C VoiceXML 2.0* に準拠しており、相談転送とは異なります。
- [W3C VoiceXML 2.0 仕様との互換性](#)。
- 宣言されていない変数を使用すると、セマンティック エラーが生成されます。変数を使用する前に宣言する必要があります。

例

次の例では、VoiceXML バージョン 2.0 の機能を有効にします。

```
Router(config)# vxm version 2.0
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。